

2019年度  
第2回 清流環境作文コンクール  
受賞作品集



けん  
と  
健人くん



さくらちゃん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会  
イタイイタイ病対策協議会





# 受賞作品集

## 神通川清流環境賞

### 第2回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 高木 勲 寛

清流・神通川が永年の発生源への立入調査により甦り、汚染された農地も復元事業により甦りました。このことを踏まえ2013年（平成25年）12月17日被害団体と三井金属鉱業及び神岡鉱業は「全面解決」の調印をしました。この「神通川清流環境賞」は全面解決を機に、悲惨なイタイイタイ病とカドミウムに汚染された米への風評被害等が二度と繰り返されないように、そしてこの史実が風化されないことを願って「基金」を創設し、清流環境作文コンクールは、その内の一つの事業として取り組んでいます。

今年度第2回は、県下61小学校の将来を担う児童から、命の尊さ、水や食べ物のこと、自然、そして地球の環境などについて2734点の応募をいただきました。

今、環境問題について大きなうねりがあります。それは、スウェーデンのストックホルムに暮らす、17歳のグレタ・トゥーンベリさんが「今、気候危機による地球が大変なことになっている」と2年前から大人たちへアピールする活動を始め、世界の若い人たちが賛同し、地球のために待ったなしで先進国は日常生活や企業の生産活動の全てに大きな変化・見直しをする必要を訴えていることです。

応募いただいた作品の中にも、気候のこと、ゴミやエネルギー、節水・節電などについての作文もあり、21世紀を担う小学生の頼もしい感性に感銘を受けました。

審査は、9名の先生方（別記）に、慎重に審査を重ねていただき、入選47点を冊子として発刊することが出来ましたことに感謝を申し上げます。冊子は富山県下の全小学校へ配布させていただきます。

終わりにこの事業についてのお願にあたり、機会を与えて頂きました関係各位に、そしてご応募頂いた学校の校長先生はじめ、担当の先生方のご尽力に衷心より感謝とお礼を申し上げます。

今後ともご協力ご支援よろしくお願いいたします。

# 審査講評

## 第2回清流環境作文コンクール審査委員長

富山国際大学子ども育成学部客員教授 水上義行

第2回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表して講評をさせていただきます。

今年度の第2回作文コンクールの応募期間を、令和元年7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校にご案内をさせていただきました。その結果、応募いただいた学校は61校（昨年度29校）に上り、応募総数は2734点（昨年度892点）の素晴らしい作文を届けていただきました。

美しい清流環境の維持は、私たちの願いであり、多数応募いただきました児童の皆さんに深く感謝を申し上げます。

審査委員会といたしましては、1次から3次までの厳正な審査を行いました。審査の観点としては、次の4点を基軸にいたしました。

- (A) イタイイタイ病に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・環境に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境体験賞
- (C) 生き物・命に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級であるか。・・・清流環境奨励賞

今回受賞されたいずれの作文も、自らの調査・観察・体験に基づき、自らの生活を見つめながら述べられています。内容的には、多くの人々の苦しみの克服や環境維持への努力、豊かな自然に生きる人々の知恵、生命の尊さなどが取り上げられており、胸をうつ作品でありました。一つ一つの言葉は、借り物ではなく、学年に応じたその子らしい表現でまとめられ、新しい疑問・発見・感動に読み手を誘い込んでくれました。子どもの素朴な捉え方は、美しい清流環境を維持していくための方向を示しており、持続可能社会の担い手として、大きな期待を抱かせてくれました。

受賞作品集は、第1回に引き続き、県内各小学校に配布する運びとなりました。作文学習の見本としてご利用いただき、言語表現力の向上に役立てていただければ幸いです。

終わりになりますが、第2回清流作文コンクールに、様々なご配慮を頂きました関係各位に厚く感謝申し上げます。

# 作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞										清流環境歴史賞										賞名				
中学年部門					低学年部門					高学年部門					中学年部門					低学年部門	部門			
佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	最優秀賞	賞
宮村	関	鈴木	朝倉	吉野	砂田	川上	前畑	高田	黒田	西島	高森	出本	間島	中村	岡本	佐伯凜太郎	岩田	八ッ橋菜弥	深原	廣上かのん	澤井	麥	滝澤	氏名
和香	芽生	亜依	巧海	凜	嶺太	航太	里桜	珠羽	悠人	大晴	匡佑	心絆	桃子	遥	真侑	聖七	聖七	弥	朱優	のん	瑠花	史帆莉	燈	小 学 校 校 名
高岡市立定塚小学校	高岡市立福岡小学校	富山市立宮野小学校	高岡市立定塚小学校	富山市立奥田小学校	富山市立芝園小学校	高岡市立福岡小学校	射水市立大島小学校	富山市立草島小学校	富山市立鶏坂小学校	富山市立音川小学校	富山市立大庄小学校	高岡市立古府小学校	高岡市立成美小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	砺波市立砺波東部小学校	富山市立宮野小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立草島小学校	富山市立速星小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山市立宮野小学校	富山市立速星小学校	富山市立新庄小学校	
4年	4年	3年	4年	3年	3年	4年	2年	2年	2年	1年	1年	2年	5年	5年	6年	6年	6年	6年	4年	4年	3年	4年	1年	学年
川にゴミを捨てないで！	自まんの緑を守るため	わたしの大好きな地いき	ぼくと虫取り	また来年も会おうね	はじめてかった黒いカブトムシ	大好きな小矢部川	わたしの心の中のネコ	鳥がうまれたよ	キュウリをそだてたよ	はるとぼくのおはなし	あさがおのかんさつ	くまさんといのしし	イタイイタイ病を学んで	イタイイタイ病資料館を訪問して	公害のない世の中へ	イタイイタイ病から学んだこと	恐ろしい病気	富山県の公害、イタイイタイ病の恐ろしさ	安全な水の大切さ	イタイイタイ病資料館に行つて	命をうばったイタイイタイ病	美しい水と豊かな大地を取り戻すには	イタイイタイびょうについでかんじたこと	題 名
54	52	50	48	46	44	42	40	38	37	36	35	34	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	ページ

清流環境科学賞															清流環境体験賞							
高学年部門					中学年部門					低学年部門					高学年部門							
佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞
山口 和瑚	原野 眞羽	寺 奏多	水野 愛栞	小島あかり	松井 啓	竹森麟汰郎	伊藤 航祐	荒木 結夢	谷上 晴音	小向 瑠璃	金田 和華	森山 明莉	槻尾 福美	水上 碧李	奥 望帆子	泉 佑樹	村井 莉子	数納 新太	島倉 実愛	森内 結子	内橋 美南	松崎 令愛
富山市立神保小学校	砺波市立砺波東部小学校	富山市立芝園小学校	富山市立鵜坂小学校	富山市立堀川南小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山市立山田小学校	高岡市立定塚小学校	砺波市立出町小学校	富山市立山田小学校	富山市立山田小学校	氷見市立宮田小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山市立芝園小学校	富山市立大庄小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	射水市立太閤山小学校	富山市立大庄小学校	富山市立新保小学校	富山市立草島小学校	富山市立速星小学校	射水市立作道小学校	立山町立立山中央小学校
5年	6年	5年	5年	6年	5年	3年	4年	3年	3年	3年	4年	2年	2年	1年	1年	1年	6年	6年	6年	6年	5年	5年
称名滝のきれいな水が常願寺川まで届く	「美しい海」を実現させるために	大事なものの	温暖化を防ぐために、自分たちができること	海洋プラスチックごみについて	青い海で魚が泳ぐために	夏休みの自由研究	プラスチックゴミをなくそう	やさしさでまもれるもの	ぼくのじいちゃん	カモシカ	ふるさとの自然	ペットボトルのリサイクル	はぐろとんぼをつかまえた	うみのごみひろい	さかながきらいなハンバーグソース	ぼくがつかまえたむし	みんなとは少しちがう体験ができた登山	熊野川をきれいにしよう	私にもできそうな小さなこと	今の川と未来の川の環境くさけの放流く	自然を守る人々	いつまでもでもきれいな水で
98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	78	76	74	73	72	71	70	66	64	62	60	58	56



## ◆応募学校一覧

富山市	富山市立東部小学校 富山市立新庄小学校 富山市立芝園小学校 富山市立藤ノ木小学校 富山市立熊野小学校 富山市立音川小学校 富山市立宮野小学校 富山市立古里小学校	富山市立堀川南小学校 富山市立上滝小学校 富山市立倉垣小学校 富山市立四方小学校 富山市立神保小学校 富山市立鶉坂小学校 富山市立草島小学校 富山大学人間発達科学部附属小学校	富山市立保内小学校 富山市立新保小学校 富山市立西田地方小学校 富山市立新庄北小学校 富山市立萩浦小学校 富山市立太田小学校 富山市立大庄小学校	富山市立大久保小学校 富山市立寒江小学校 富山市立呉羽小学校 富山市立山田小学校 富山市立速星小学校 富山市立堀川小学校
高岡市	高岡市立野村小学校 高岡市立伏木小学校 高岡市立横田小学校	高岡市立博労小学校 高岡市立戸出東部小学校 高岡市立定塚小学校	高岡市立福岡小学校 高岡市立戸出西部小学校 高岡市立成美小学校	高岡市立古府小学校 高岡市立中田小学校
砺波市	砺波市立庄川小学校	砺波市立砺波南部小学校	砺波市立出町小学校	砺波市立砺波東部小学校
射水市	射水市立作道小学校 射水市立大島小学校	射水市立塚原小学校 射水市立大門小学校	射水市立太閤山小学校 射水市立放生津小学校	射水市立小杉小学校 射水市立金山小学校
立山町	立山町立立山中央小学校	立山町立釜ヶ淵小学校		
氷見市	氷見市立比美乃江小学校 氷見市立宮田小学校	氷見市立湖南小学校	氷見市立窪小学校	氷見市立朝日丘小学校
小矢部市	小矢部市立大谷小学校			
入善町	入善町立入善小学校			

## ◆審査員一覧

水上 義行 富山国際大学子ども育成学部客員教授

仲井 文之 富山国際大学子ども育成学部教授

瀬戸 健 富山国際大学子ども育成学部教授

宮城 信 富山大学人間発達科学部准教授

鈴木 敬子 元射水市立作道小学校長

安元 恵子 元高岡市立東五位小学校長

牧野 宇子 元富山市立四方小学校長

城岸 毅 元南砺市立井波中学校長

河田 新子 元射水市立放生津小学校長

## ◆後援団体一覧

富山県教育委員会 富山県小学校校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会



# 清流環境歷史賞

\*低学年部門\*

## 最優秀賞

### イタイイタイびょうについで かんじたこと

富山市立新庄小学校 一年

滝澤 たきざわ

燈 あかり

わたしは、なつやすみにイタイイタイびょうしりょうかんにいきました。

イタイイタイびょうのなまえはしっていたけれど、くわしくはしらなかったので、こんなにかなしきこと

だとはおもいませんでした。

イタイイタイびょうは、とやまけんのじんづうがわりゅういきでおきた、にほんの四だいこうがいびょうの一つです。かんじゃさんが、イタイイタイとなきさけぶことから、そのなまえがついたそうです。いきをすうたび、はりが、せんぼんチクンチクンとさすようないたさだったそうです。

びょうきのげんいんは、ぎふけんのかみおかこうざんからじんづうがわにながれてきたカドミウムです。そのかわのみずでせんたくものや、やさいやこめづくりをしたので、ひとびとはびょうきになりました。わたしは、しりょうかんで、「いねにわるく、さかになるいものがひとにわるくないわけがない。」ということばがこころにのこりました。

しぜんとひとびとは、つながっていることがわかりました。

わたしは、じぶんにできることをかんがえたら、かわやうみなどのゴミをひろいたいとおもいました。イタイイタイびょうのこわさをわすれずに、とやまのきれいなみずやしぜんをまもりたいとおもいました。



\* 中学年部門 \*

## 最優秀賞

### 美しい水と豊かな大地を 取り戻すには

富山市立速星小学校 四年

麥<sup>むぎ</sup> 史帆莉<sup>しほり</sup>

わたしは、初めてイタイイタイ病について学びました。

富山は昔から川や海や山に囲まれて自然豊かな県でした。富山を流れる神通川は昔から「神様が通る川」

と言われるほど清らかで、人々の生活にはかかせない大切なものでした。

明治の終わりごろ、川にい変が起き始めました。川が白くにごったり、魚が死んでしまったり、イネの育ちが悪くなったりしました。その原因は、神通川の上流の神岡こう山から出たカドミウムという毒が原因でした。また、人にもえいきょうができました。

こしやかたやひざが痛くなり、転ぶとすぐこっせつをしてしまう病気でした。病気になった人がみんな、「いたいいたい。」と泣きさけぶので、「イタイイタイ病」と名づけられました。町では、いろんな差別があり、人びとの心も体も苦しめました。

わたしは、病気でスカスカになったほねのもけいと、けんこうな人のほねのもけいを持ち、くらべてみました。病気の人のほねは軽くてもろそうで、すぐおれてしまいそうだと思います。安全だと信じて食べたり

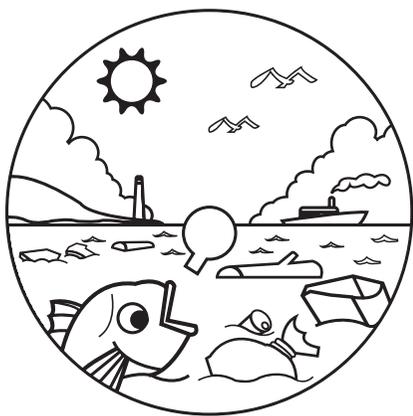
\* 中学年部門 \*

飲んだりしていたのに、水がよごれることで、農作物も、それを食べる人や動物も、みんな病気にしてしまふことはおそろしいと思いました。わたしは、苦しむ人の写真やえいぞうを見てかわいそう、ひどいと思いました。

さいばんをして、病気がみとめられて、国や県がよごれてしまった水や土地のふく元に取りかかりました。全国で初めてだそうです。よごれるのはあつという間だったのに、ふく元するのに四十年かかったそうです。よごれた土は、よごれを取ることはできないため、上に新しい土をのせて、また使えるようにするしかないのだと知りました。一度よごれたかんきょうは、元にもどせないと知ってショックでした。

わたしは、水や周りのかんきょうをよごさないように気をつけて、生きていこうと思いました。そして、みんなでかんきょうのことについて勉強して、みんな

が気をつけなければならぬと思いました。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### 命をうばったイタイイタイ病

富山市立宮野小学校 三年

澤井さわい 瑠花るか

わたしは図書室で、『死の川とたたかうイタイイタイ病』という本と出会いました。

わたしは、イタイイタイ病についてくわしく知る前は、ただ、こしやおなかがいなくなるだけかと思っていました。でも、本を読むとちがっていました。体が

いたくなるのはもちろん、歩くことも、体をさわることとも、つらいのだということが分かりました。しんどうで、ほねがおれてしまうことがあったと聞きました。イタイイタイ病になると、いつもわたしがしていることが、何もできなくなってしまいます。本の中には、イタイイタイ病になった人が、しにたいと思うほど、くるしんでいたことが書いてありました。

こんなこわいイタイイタイ病のげんいんは、ぎふ県のかみおかこう山から流れてきたカドミウムが体の中に入り、それが体内にたまっていったことだと分かりました。

私は、総合てきな学習の時間に地域を歩いていて、「おせん田ふく元のひ」を見つけました。イタイイタイ病が出ていたのは、わたしが生まれる前のことなのに、宮野の人にとって、ずっと忘れてはいけないうことなのでしょう。

イタイイタイ病になった人は、まわりの人からつめたい目で見られ、家族もかなしい気持ちでいっぱいだったと思います。どうしてこんな病気にならないかならないのかと、つらかっただろうと思います。この病気でたくさんの人をうしなつてかなしいし、ゆるせない気持ちになりました。

水をよごすことでおこつたイタイイタイ病だから、わたしたちは、水をきれいにしていくことが大切なのです。水をきれいにしていれば、イタイイタイ病はおこらなかつたし、みんなゆたかにくらしていけると思います。

今、富山わんでは、たくさんのごみが流れついでいます。これは、自ぜんかんきょうがわるくなる原因となるので、ゴミはきまつている場所へすて、使える物は使つて、ゴミをへらすよう気をつけていきます。もう二どとイタイイタイ病がおこらないことを、わた

しは願います。

わたしは、はぎ野はくしのように、いろんなむずかしいことも、ど力をしてみんなのためにやくに立つ仕事ができたらいいと思いました。



\* 中学年部門 \*

佳作

イタイイタイ病資料館に行つて

富山大学人間発達科学部附属小学校 四年

廣上<sup>ひろかみ</sup>かのん

イタイイタイ病になりやすいのは、子どもをうんだ三十五さい以上の人だそうです。原因は、神通川にまざったカドミウムです。

昔の人は、神通川の川の水のみ水や、洗たくものに使っていたから、神通川にカドミウムがまざった川

の水をのんでいたのです。

わたしは、昔、うんていから落ちて、右手をこっせつしたことがあります。こっせつした始めは、いたくて、なおってくる、と、どんどんいたみは、おさまってきました。なおるのには、三週間ぐらいかかりました。ふつうのこっせつはなおるけど、イタイイタイ病は、いつまでたってもなおりません。

「人間を知るためには、どういう環境でくらしているかをすることが重要です。」と、姉の国語の教科書にのっていました。

環境とは、「人間や生物をとりかこんでいる、いろいろなことながら、まわりのじょうたい。」とじしょに書いてありました。

そこに住んでいる人たちは、昔から神通川の水を農業や漁業、生活用水として大切に使っていました。

昔の人たちは、カドミウムがまざった魚を食べてし

まっています。お米を育てる水にカドミウムがまざってしまい、たべものにもまざってしまいました。

今のくらしは、水道がせいびされて、川の水をのまなくてもだいじょうぶです。川の魚は、きれいな川になり、カドミウムがまざっていない魚がとれます。きれいな土や水を使うので、カドミウムがまざっていないお米がとれます。

水道をせいびしたり、川をきれいにしたり、土をきれいな土にかえたりするのは、とてもたいへんだったと思います。

またカドミウムがまざった川にするのはよくないと思います。

ふたたびイタイタイ病をおこさないために、「どのようなくらしをしていて、どんな環境で、くらししているのか」を、自分たちが、知ることが大切だと思います。



\* 中学年部門 \*

佳作

安全な水の大切さ

富山市立速星小学校 四年

深原 ふかはら  
朱優 しゆう

わたしは、安全な水の大切さについて考えてみました。というのは、自分が住んでいる婦中町に、イタイイタイ病という病気があることを知ったからです。

イタイイタイ病とは、一九五五年に、初めて新聞で

報道された病気です。どうして婦中町のちかくだけで、その時の人たちがこの病気にかかったかというと、婦中町に流れている神通川の上流にある神岡鉾山という工場からすてられた水に、カドミウムという毒が入っていて、それが神通川に流れ、その下流にある畑や田んぼに、その毒がたまったからです。みんな知らずにその水を飲んだり、米や農作物をたべたりすることに、その病気にかかりました。

イタイイタイ病は、カドミウムが体にたまることにより、ほねが弱くなって、少しころんだだけでも、ほねが折れたりヒビが入ったりして、それがとてもいたいで、この病気にかかるとみんなが、「いたいいたい。」と言ってなくなっていくそうです。

その時の人たちが飲んだ水は、少し白くにごっていました。今は、水道のじゃ口からでてくる水は、学校で見学に行った浄水場できれいにされ、安全に飲

むことができます。

わたしたちが飲んでいる富山の水は、全国的にもきれいでおいしい水です。そして、今わたしたちは、イタイタイ病にもならず、けんこうな体で生きていきます。その時の人たちが病気にかった原因が水にあることを知り、わたしは、「生きていくのに水がとても大切なあ。」と思いました。

日本で、ふつうにきれいな水が飲めるのはなぜでしょう。その理由は、日本では、衛生にとっても注意が向けられていて、きれいな山や川があるからです。安全な水道水が飲めるのは、世界で十五カ国しかないそうです。水道水が飲めない国ではどうしているのかを調べてみると、多くはお金をだして水を買っているそうです。

こうして調べてわかったことから、わたしは水がとても大切だということを知り、これからは、水をむだ

づかいせず大切にしたいと思いました。



\*高学年部門\*

## 最優秀賞

### 富山県の公害、 イタイイタイ病の恐ろしさ

富山市立草島小学校 六年

八ツ橋 やつはし 茉弥 まみ

私は、五年生の時に社会科の授業でイタイイタイ病の学習をしました。その時にとっても興味が湧いたので、また調べようと思いました。

イタイイタイ病は、私たちの古里、富山県で起きた

公害です。岐阜県にある神岡鉱山という鉱山から流れ出たカドミウムを原因とする、四大公害病の一つにも数えられる公害です。

カドミウムは、銀白色のやわらかい金属のことで、人体には有害です。そのカドミウムによって川は汚染されていきます。そして、汚染された水を農作地や飲み水に使用することによって、体内に取りこんでしまいます。簡単に体中の骨が歪んだり、ひびがはいったりします。結果的には生活することも一人ではできなくなり、亡くなられてしまうこともあるそうです。被害者は九割近くが女性で、産後の女性が多かったそうです。

私は、イタイイタイ病の学習をした時に、驚き、怖くなりました。なぜなら、私の古里、富山県が四大公害病の一つ、イタイイタイ病の発生地だと知ったからです。今は、災害なども少なく安全だと思っていただけ

れども、昔は大きな公害が起き、たくさんの方が亡くなられたと初めて知りました。しかも、富山県で起きたということは、私のご先祖様もイタイイタイ病にかかったのかなと、ふと思いました。想像してみると、とても怖くなりました。

イタイイタイ病の被害者の家族や患者さんたちが、イタイイタイ病対策協議会を結成しました。その後、神岡鉱業所と交渉しても、対応が冷やかだったので、裁判で訴えることを決意しました。一九六八年から裁判を行い、そのうちの第一次訴訟で勝訴判決を得ました。残りの訴訟は、補償を約束され、補償の一環として汚染地域の復元工事が行われ、二〇一二年に終わりました。しかし、今も水質検査が毎日行われています。イタイイタイ病はまだ終わっていないのだと思います。

私は六年生になり、イタイイタイ病のことについて

再度学習して、更に関心が深まりました。

五年生の時の社会の学習よりも、今年は詳しく調べたので、たくさん知識が増えました。私は特に企業と直接交渉したことが、とても素晴らしいと思いました。イタイイタイ病の患者、亡くなられた方々、患者の親族の方々にイタイイタイ病対策協議会というチームを結成させた行動力がすごいなと思いました。「患者がもう増えないように」と、人のためにがんばる姿とても素敵だと思いました。

私は、裁判の件から一つだけ学んだことがあります。それは、「誰かのために必死になって努力を続けていれば、必ず結果は少しでも良くなる。」ということです。当たり前のように聞こえますが、努力をすることが一番大切だと、イタイイタイ病の調べ学習を通して学びました。

\*高学年部門\*

## 優秀賞

### 恐ろしい病気

富山市立堀川南小学校 六年

岩田 いわた 聖七 せな

私は、五年生の時、総合の学習で、「イタイイタイ病の原因」について調べました。

イタイイタイ病の原因であるカドミウムによってた  
くさんの人が苦しい思いをしてきたと知り、とても胸  
が痛くなりました。周りの目を気にしながらも、苦し

みに耐え続けた毎日は、誰にも分からないようなつら  
さだったのだと思います。生活には欠かせない神通川  
の水で、こんな悲しい事件が起きるなんて思ってもみ  
なかつたと思います。

神通川の近くに住む人々は、風土病（その地域特有  
の病気）や業病（悪い行いのむくいとして受ける病気）  
と考えていました。

この病気のせいで被害を受けている人もいるし、患  
者の多くは、子供がいる農家の母親だったので、ねた  
きりになると家事ができなくなり、かい護する人も必  
要になります。また、農作業をする人も減るので、人  
手不足となり、農作業は困難になりました。そして、  
医りよう費もかさむため、患者の家族は経済的に苦し  
い生活をしいられることになりました。

私なら、こんなつらい思いをしながら生き続けるの  
は無理だし、死ぬ方がいいと思いました。病気になっ

た本人もその状態を見てた人もつらい、苦しい、悲しいと思います。ついに、萩野昇医師が立ち上がった、世の中にイタイイタイ病のことを伝えてくれたのは、患者にとって救いだっただと思います。どうすることもできなくて、苦しみ続け、もう死のことしか考えられなかった人は、とてもありがたい気持ちになったと思います。

この公害病によって、人生も生活もくるわされた人、気持ちが変わった人、これからもっと楽しいことがあったはずの人生が大きく変わった人、たくさんの方がえいきょうを受けたと思います。

実際に、おばあちゃんが、病にかかって苦しんでいく姿を見てきた人の話を聞くと、そのおばあちゃんは、イタイイタイ病の原因を知ることなく、なくなったそうです。「今さら原因が分かってもおばあちゃんは戻ってこないし遅い!!」と、後かいをしているんじゃないかなと思いました。

地元の人たちが裁判をして二回も勝ったことは、患者にとっても家族にとっても、とても嬉しいことだと思います。神通川で起きたこのひげきは、一生忘れることはないでしょう。

そしてこれは、今と昔の違いだと思います。今は、機械化が進み、きたない水も、光だけで殺きんできた、米だって、人手不足でも機械が何台かあれば、短時間にたくさんのお米を作ったりすることが出来ます。でも、昔はそんな技術的に進歩していなかったもので、やっぱりそこに違いがあると思いました。昔、神岡鉱山から出たカドミウムを取り除いて、きれいな水に変えてくれたのが今につながっているし、今こうやって何の問題もなく飲めることが、本当に素晴らしいことだと思います。

神通川はきれいな川であってほしいです。

\*高学年部門\*

## 優秀賞

### イタイイタイ病から学んだこと

富山市立宮野小学校 六年

佐伯 さえき 凜太郎 りんたろう

もう二度とイタイイタイ病を引き起こさないために。

みなさんは、このイタイイタイ病という病気を知っていますか。これは、ぼくの住んでいる地域、富山市の神通川流域で起きた四大公害病の一つです。

ぼくは、今年の五月にイタイイタイ病資料館へ見学に行きました。この施設は、約九十年前に起きたイタイイタイ病のことを伝える施設です。イタイイタイ病というのは、カドミウムが体にたくさん入ることで発しようする病気です。そのしよう状は、骨がとてもろくなり、少し動いただけで骨折してしまう病気です。そして、原因のカドミウムを流したのは、ぎふ県の神岡鉱山です。

当時の人々の生活では、神通川の水はなくてはならないもので、その水で米作りもしていました。しかし、カドミウムをふくんだ、白くにごった水が神通川に流れても、その水を使うしかなく、飲み水や、料理、米作りに活用していました。

そのような中で、このイタイイタイ病を研究して解明しようとした医師がいます。その方は、萩野昇という医師です。昔、ぼくの母がよく熱を出したときに、

しんさつをしてもらっていたと言っていました。

また、イタイイタイ病資料館で語り部をしていらっしゃる小松さんのお父さんは、イタイイタイ病対さく協議会初代会長でした。会長は、裁判で、企業側に勝つために患者の家を一軒一軒回り、裁判の呼びかけをしました。が、周りからは、「金がほしいのか。」「名よがほしいのか。」「地位がほしいのか。」などと批判され、毎晩いたずら電話をかけられるなどのいやがらせを受けたそうです。

しかし、あきらめず裁判をおこし、公害病の裁判では初めての勝利をつかみとりました。

被害者側は、「企業側と」「患者に対する損害ばいしょう」、「汚染土の復元」、「公害防止」の三つの取り決めを行いました。その後、復元工事は進み、今のような豊かな大地にもどりました。

しかし、裁判に勝利する前に死んでしまった方々が

います。その方々も天国で、今の宮野や裁判の勝利を見て、喜んでいることと思います。

イタイイタイ病は、もう二度と起こってほしくない。イタイイタイ病対策協議会の人たち、裁判に参加した方々、小松さんのお父さん、萩野先生、この方々以外にも、イタイイタイ病に立ち向かった人、そのような方々が、ぼくらの住む宮野という地域にいたということとをぼくは、とても誇りに思います。

平和をずっと続けるということは、単純に聞こえるかもしれないけれど、そのうらで、この方々が必死に地域を守ってくれたことを忘れないでほしいと思います。

\*高学年部門\*

佳作

公害のない世の中へ

砺波市立砺波東部小学校 六年

岡本 真侑  
おかもと まゆ

私は五年生の時、校外学習でイタイイタイ病資料館に行きました。その時にイタイイタイ病のおそろしさをはじめて知りました。

それまでは、テレビなどでイタイイタイ病という言葉葉を聞いたことはあったけど、正直、「何の病気?」「お

もしろい名前だな。」と思っていました。しかし、そんなことを絶対に言っではいけない、おそろしい出来事だということを知りました。

どんなにたくさんの方が傷つき、苦しんだのかと思うと、あんなことを言ってしまった自分がなさけなくなりしました。私は、苦しんでいる人のために何か自分にできることはないのかと思い、イタイイタイ病についてもっとくわしく知ろうと思いました。

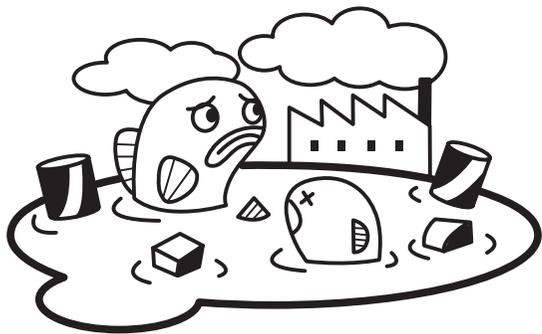
そんな時、私は、イタイイタイ病にかかった人の家族の人などが、イタイイタイ病のことを後の時代にも伝えたいという思いで、語り部として当時のことを伝えていくという活動をしていると聞きました。私は、「このおそろしい出来事を後世に伝えていく必要があるのか。」「苦しんでいる人たちのためにも後世には伝えず忘れたほうがいいのでは?」と、全く反対の考えを持っていました。でも、語り部の方が、「家族

のことを話さないといけなくて、辛いけど後の時代にも伝えたい。」と言っていたのだと知りました。

私は、やっぱりこのおそろしい出来事を後の時代に伝え、二度と公害というたくさんの人を苦しめることを起こさないようにすることが、イタイイタイ病で苦しんだ人々の願いなんだと思いました。イタイイタイ病では、かんじゃさん本人もその家族も、それによって差別された人々も、加害者側だってきつとこうかいし、苦しんでいると思います。

そんな人々のためにも、私は、後の時代にこのイタイイタイ病というおそろしい公害を伝えていきたいと思いました。そして、もう二度と公害を起こさないようにしたいと思います。もちろん、ひ害者の方の中にはこんなにおそろしい出来事を残したくない、そういう人もいます。しかし、このまま「イタイイタイ病」という名前だけが残ってしまうと、私のよう

に、「おもしろい名前」と絶対に言っではいけないことを軽々しく言ってしまう人が増えると思いました。私は、イタイイタイ病のことをしっかりと後の時代に伝えていきたいです。そして、二度と公害を起こさない世の中にしていきたいです。



\*高学年部門\*

佳作

イタイイタイ病資料館を訪問して

富山大学人間発達科学部附属小学校 五年

中村 遥 なかむら はるか

富山県には、神通川、庄川、常願寺川の三つの大きな川が流れています。中でも神通川は、神様が通る川と言われ、昔から私たちの生活と深いつながりがあった川です。

しかし、この川が「イタイイタイ病」と深い関わり

があることを知り、母と一緒に「イタイイタイ病資料館」に行きました。

「イタイイタイ病」は、神通川流域に広がり、他の地域には見られない不思議な病気でした。体中のあちこちが痛くなり、ほねが折れて、最後には、息をするだけでも痛く、「いたいいたい。」と言って死んで行き、誰も理由がわからない病気でした。また、神通川の豊かな水を利用した稲作も稲の成長がなくなり、農業もできなくなり、神通川流域の人々の暮らしは、貧しくなっていました。

なぜ、神通川流域だけでこんなことが起きているのか。大きな疑問を持って研究を始めたのは、婦中町の萩野博士でした。萩野博士は、まず、神通川の上流で何かが起きていると考えて、神通川上流の岐阜県の山奥まで行き、神岡鉦山で亜鉛を発掘している所にとどりました。

そこで、亜鉛に含まれているカドミウムが溶け出し、神通川の上流に流れ出していることを突き止めました。このカドミウムが原因で、不思議な病気が発症しているのではないかと、たくさんの方の水質検査や研究を行い、「イタイイタイ病は、カドミウムが原因である」ことをつきとめました。「イタイイタイ病」は、産業開発のために川が汚染された環境汚染が原因だったのです。

私は、暮らしを豊かにする産業の開発が、逆に私たちの生活をこわす原因になっていることに驚きました。また、神通川流域の人たちの生活用水であり、豊かな農業を営むことができた神様の贈り物だった川が、汚染されてしまったことが、残念でたまりません。今では、神通川流域は、カドミウムで汚染された土地を元の健全な土地に変えるため、汚染された土を穴の中にとじこめ、その上から新しい土をかぶせて、雨

が降ってもカドミウムが流れ出さないような工事が行われています。また、生活用水も水道の水に変わりました。カドミウム汚染の原因であった亜鉛工場からのカドミウムの流出もなくなりました。

考えてみると、環境汚染は、すぐに結果が出るのではなく、何年も何十年もかかって、少しずつ私たちの体をむしばんで行きます。そして、美しい自然をこわして行きます。美しい自然は、すぐに作り直すことは、できません。私は、「イタイイタイ病資料館」へ行き、産業の発達が、環境汚染と隣合せであることを知りびっくりしました。

私は、美しい自然を守って行くために、川のゴミを拾ったりして小さいことから実行していき、環境汚染についてももっともっと学んで行きたいと思えます。

\*高学年部門\*

佳作

イタイイタイ病を学んで

高岡市立成美小学校 五年

問島 桃子

わたしは、今までイタイイタイ病という病気を聞いたことがあったけど、どういう病気なのか知ろうとも思いませんでした。

神通川の下流は、フナやメダカやどじょうがすみ、秋には米がいっぱいしゅうかくできて、人々は、昔か

ら神通川の水を農業や漁業、生活用水として大切に使っていました。

ところが、明治時代の終わりごろから、神通川では水が白くにごる、いねの育ちが悪くなる、川魚が死ぬなど不思議なことが起こりましたが、その原因が、神通川にあるとは思わず、自然現象のせいだと考えました。川のそばに住む人々は、神通川を信じ切っていました。川の水がおかしいと思っても、川の水を毎日の生活用水にしていたから、使わないわけにはいきませんでした。

もし、自分がその時代に生きていたとしたら、やっぱり川の水が何かおかしいと思っても、毎日の生活用水にしていたと思います。たぶん、私もイタイイタイ病にかかっていたと思うと、ぞっとします。

神岡こう山から出ている、こう毒のまざった水が、その原因だということが分かってきました。こう毒の

ひ害は、アエン生産の廃物によるカドミウムであることが証明されました。神岡こう山は、ひ害をみとめ、毒を取りのぞくし設をもっと強化し、県も、ほじょ金を出しました。会社は、農民のこう議に対して、毎年ほしよう金を支はらって対応していました。

きみような病気がはやりはじめ、こし、かた、ひざ、太ももに神経つうのような痛みがあり、少し動いただけでも、こっ折したり、ズキズキとした、いたみが出ました。「いたいたい」と泣きさけぶから、イタイタイ病と名づけられました。いたくて、起き上がれず、ふとも、かぶれず、動くといたいので、タタミごと病院に運ばれたそうです。どんないたみなのか、私には想像もつきません。たぶん私はいたみに耐えきれず、泣きさけんでいたでしょう。

さいばんは勝ちましたが、イタイタイ病は、終わっていません。今もまだ苦しんでいるかん者さんが残っ

ているのです。カドミウムでよごれてしまった水と大地をきれいにするために、いろんな取り組みがされてきました。ふたたび、自然に恵まれたくらしがもどりましたが、もう二度と、こんな公害病を生み出すことがないようにと、いのりました。

イタイタイ病を学んで、自分が今、元気に生活できていることに感謝しました。

私たちが住む富山県は、自然が豊かで水がおいしいです。そのかんきょうを守るために、自然を大切にしていくな活動に、進んで取り組んでいかなければならない、と感じました。





# 清流環境体験賞

\*低学年部門\*

## 最優秀賞

### くまざんとしのつ

高岡市立古府小学校 二年

出<sup>でもと</sup>本  
心<sup>こころな</sup>絆

わたしのいえは、高いばしょにあって、山が近くに  
見えます。

ほしが見えて、みどりがいっぱいのところがすてき  
なところですよ。

だけど、いえの近くで、くまといのししが出ました。

わたしはこわくなりました。くまはずをかりてランドセルにつけて学校に行っています。友だちとあそぶときははずをもって行かないけど、一人であるかないように気をつけています。

くまやいのししが、どうして山から出てきたのか考えました。

わたしは、いつも同じものだけをたべているのはいやです。ハクサイばかりじゃなくて、おかしやジュースもほしくなってしまう。くまといのししも山の中のたべものじゃなくて、はたけのおやさいをたべたくなって、山から出てきたのかなと思います。

同じ生きものだけど、おそわれてけがをすることも  
あるので、これからも気をつけて大すきな「こふ」で  
すごしていきたいです。

山から、くまといのししが下りてこないように、ど  
うぶつのはたけや田んぼをつくれればいいと思います。

\*低学年部門\*

優秀賞

あさがおのかんざつ

富山市立大庄小学校 一年

高森 匡佑  
たかもり きょうすけ

ぼくは、一ねんせいになって、がっこうであさがおをそだてました。

はじめにたねをみたときには、とてもちっちゃくてくろくて、「ほんとうにきれいなはながさくのかなあ。」とおもいました。

土にあなをあけて、たねをいれて、たつぷりとみずをあげると、なんだかわくわくしてきました。

ぼくのあさがおは、すぐにめがでて、はっぱもたくさんふえていきました。くきもぐんぐんのびて、あっというまにはながさきました。むらさきいろのはなでした。

ぼくは、さいたあさがおのはなで、いろみずあそびをしました。うすむらさきのきれいないろみずができました。そのみずにえのぐをまぜて、ふうせんのえをかきました。とてもおもしろかったです。こんどは、ほかのはなでもちようせんしたいとおもいました。

なつやすみもおせわをつづけました。二十一こはながさきました。たねもたくさんとれました。とてもうれしかったです。

二ねんせいになったら、トマトやきゅうりをそだててみたいです。そして、いろいろなひとにたべてほしいです。

\*低学年部門\*

## 優秀賞

### はるとぼくのおはなし

富山市立音川小学校 一年

西島 にしじま 大晴 たいせい

ぼくが、いきものとのふれあいたいけんていころにのこっていることは、はるといっしょにあそんだことです。

ぼくがうまれてないとき、どうろにすてられてたすけられたのを、ぱぱとばあちゃんがもらいました。ど

んどんごはんをたべてげんきになったそうです。いぬのなまえは、はるです。

はるとぼくは、おもちゃをなげたりとってきたりしてあそびました。けんかをすることもあるけど、すくなかなおりをしていつもうれしいです。いつもいっしょにあそべて、たのしいです。ぼくは、はるのことがすごくすごく大好きです。はるのかおは、いつもにこにこです。ごはんをたべるとき、あむあむたべてくれて、おおきくなってうれしいです。さんぽもいっしょにいって、いっしょにはしったりしてあそんでいきます。これからもなかよくいっしょにすごしたいです。はるは、ぼくのことをがだいすきだとおもいます。

いつもかわいいかおでいてくれてうれしいです。はるといっしょにおふろにはいってあらってあげたりしています。はるのいちばんかわいいところは、おなかです。さわると、さらさらです。

これからも、げんきになかよくすごしたいです。

\*低学年部門\*

佳作

キュウリをそだてたよ

富山市立鵜坂小学校 二年

黒田くろだ悠人ゆうと

ぼくは、生かつかの学しゅうでキュウリをそだてて  
います。

ぼくは、まい日、水やりをしました。そうしたら、はっ  
ぱが大きくなりました。黄色の花もできました。きれ  
いな花ができて、うれしかったです。

おせ話をつづけていたら、キュウリがいっぱいでき  
ました。しゅうかくしたキュウリを見ると、大き  
さや形がちがうことに気がつきました。太いキュウリ  
や細いキュウリや、みじかくてバナナみたいな形をし  
ているキュウリがありました。どうして形や大きさが  
ちがうのかふしぎだな、と思いました。

今、ぼくのキュウリは、二十こぐらいしゅうかくで  
きました。いえで、しゅうかくしたキュウリをたべま  
した。タコとキュウリのすのものや、つけものにして  
たべました。おいしかったです。おかあさんにも、

「おいしいね。」

と言われてうれしかったです。

これからもおせ話をして、キュウリをそだてたい  
です。まだまだキュウリをそだてて、おうちでたべたい  
です。

\*低学年部門\*

佳作

鳥がうまれたよ

富山市立草島小学校 二年

高田<sup>たかた</sup>  
珠羽<sup>みづ</sup>

六月のある日のことです。

今年は、鳥のなき声が近くでたくさん聞こえると、ふしぎにおもっていました。そんなとき、にわのもしみの木の間に、鳥のすを見つけました。中をそっとのぞいてみると、鳥のたまごが四こありました。気になっ

てのぞこうと近づくと、親鳥がおそいかかってきました。わたしは、びっくりしました。

かぞくで、話をしました。おじいさんが、

「そっと、見といてやろう。」

「わかったよ。」

と、わたしは、こたえました。

なににちかすると、たまごからひな鳥がうまれました。三わうまれました。

「ピーピーピー。」

と、とても高い声がかわいくなきます。とてもかわいいです。

インターネットでしらべると、むくどりでした。

七月になって、すが空っぽになりました。

「もう、子そだてがおわり、大きな空にとびたつたのかな。」

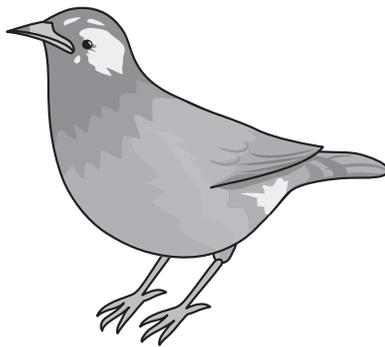
と、さみしそうに、ママが言いました。

「元気にしているといいね。」

と、わたしが言いました。

一ヶ月ぐらいの間、鳥のおかげでたのしくすごせました。

でも空っぽのすを見ると、すこしさみしいです。



\*低学年部門\*

佳作

## わたしの心の中のネコ

射水市立大島小学校 二年

前畑 まえはた  
里桜 りお

わたしは、ネコが大スキです。でも、今いるネコの前にいたネコは、びょう気でなくなっていました。

そのネコの名前はバニラです。はじめてかったネコでした。白とあかるい茶色で、毛のながいとてもびりさんでした。かしこくて、おもちゃをなげたら犬のようにとってきました。さいしょはこわくて、ちかづくことも出来ませんでした。でも、お昼ねもいっしょに出来るまでなかよくなれました。

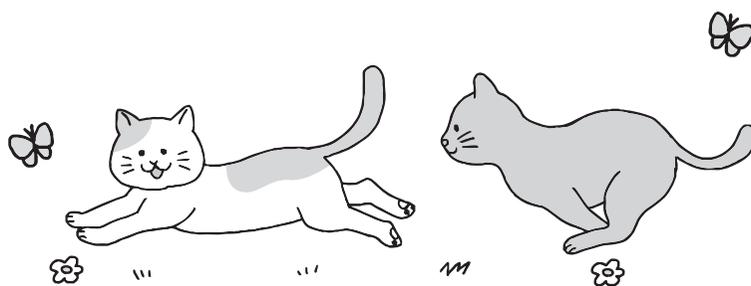
ある日、とつぜんぐあいが変わるくなって、びょういんに行ったら、なおらないびょう気が見つかりました。一さい前の子ネコがなりやすくて、めずらしいびょう気です。つらいまま家にいさせるか、天国へいかせるかを、なきながら家ぞくで話しあって、天国へおくつてあげました。五さいのわたしにとって、はじめてのおそうしきでした。

バニラはたくさんのことを教えてくれました。たと

ええ、いのちがなくなったら、ぜんぶがなくなること  
や、ネコのせわのしかたなどを教えてくれました。

さようならをするときは、さみしかったけど、バニ  
ラが心の中にいると思うと、何でもがんばれます。

今は、二さいになったネコと楽しくくらしています。  
す。けんこうでながいきしてほしいです。



\* 中学年部門 \*

## 最優秀賞

### 大好きな小矢部川

高岡市立福岡小学校 四年

川上 かわかみ 航太 こうた

「出勤！環境調査隊」として、ぼくたち四年生は、小学校のそばを流れる小矢部川へ行き、川辺の生き物を調べました。

川の水質によって、そこにすむ生き物の種類はちがいます。例えば、きれいな水にはサワガニやゲンジボ

タルのような虫がすんでいます。また、きたない水には、タニシやチョウバエなどがすんでいます。ぼくは、小矢部川に、きれいな水にすむ生物がたくさんいるといいなと思いました。

ふだん、土手をさん歩しているときは、川を遠くからながめているだけだったので、中に入るのはこの日をはじめででした。

長ぐつをはいて、あみを持って、じゅんびオツケー。さあ、調査開始だ！

川の水はとうめいで、浅いところでは底の石が見え、深いところはにごっていて底まで見えませんでした。あみで水をすくったり、石のうらを見ると、ヌマエビやヤゴを発見しました。他にメダカを見つけている人もいました。結果として、小矢部川の水質はきれいだということが分かってうれしかったです。

ぼくは、水面がキラキラ光りながら流れる小矢部川

を見るのが大好きです。特に、夕方は赤くそまっとしても美しいです。小矢部川がこれからもきれいな川でいてほしいと思います、そのために、ぼくに何ができるか考えてみました。

まずは川のゴミについてです。ぼくたちの家のそばを流れる用水路は、川へとつながります。だから、用水路にゴミが落ちると、そのゴミは川へと運ばれてしまいます。用水路にゴミが入らないようにするには、家から出るゴミをルールを守ってきちんと出したり、道路に落ちているゴミを拾ったりするとよいと思います。

また、ぼくたちの家からでる生活はいい水は、下水しより場できれいな水にしてから川へ流しますが、油などでよごれた水が下水しより場へおくられると、水をきれいにしてくれるプラנקトンが死んでしまうそうです。だから、お皿をあらうときは、まず、よごれ

をふきとってからあらうなど、工夫をしたいと思います。

ぼくは年長るとき、小矢部川にコイのち魚を放流したことがあります。「あのコイたちは、大きくなって元気におよいでいるのかな？」コイたちのためにも、小矢部川はこれからもみんなの力で守っていきたいです。そして、たくさん生き物がかいてきにごせる川であってほしいと思います。

\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### はじめてかった黒いカブトムシ

富山市立芝園小学校 三年

砂田 すなだ  
嶺太 りょうた

二年の十月、町内うん動会の後、ひばりがおかほいく園へ、うちあげに行ったとき、すてられたまっ黒のカブトムシを見つけました。

その日は、風も強いし雨もふりそうで、しかも、肢が少しなかったので、かってあげることにしました。

家に帰り、すぐに虫かごの中にゼリーなどを入れました。せい虫をかうのは、はじめてなので、よくかさつしました。さいしょの方は、さわって遊んでいましたが、さいしょから弱っていたのですぐにやめました。お世話していくと、少しずつ元気になったのか、ゼリーもたくさんへって、ほとんどなくなりました。

学校から帰って来たら一もくさんに見に行きました。昼間は木の下でねむっていたので、そっとしておきました。夕方になると、また活動しはじめるので、虫めがねをもって来て、またまた、かんさつしました。夜も、カブトムシのことで頭がいっぱいでした。

「今はどうしているかな？」

「楽しく食べているかな？」

など、いろいろ考えていました。

ぼくは、さいしょ学校にもって行くつもりでした。でもお母さんに、

「弱るよ。」

と言われたのでやめました。それからずっと何もさわらずにかんさつするだけでした。ケースを開けるときは、きりふきをやるときぐらいでした。

かいはじめてから三日目の夜に、少し心配になって来ました。少し弱っていたので、しんでしまうか気になって、あんまりねることができませんでした。

次の日の朝、見てもいつもとかわらずに活動していました。だけど、学校から帰って来てから宿題が終わった後、何かがおかしい様子でした。ぼくは、ケースのふたを開けてさわってみました。ゼリーの近くにおいてみても食べません。しんでしまっていたのです。その後、はかを作ってやりました。

そのカブトムシをかってから、自ぜんが大切だと思うようになりました。しよく物も昆虫も、全部生き物だから大事ということが学べました。

そのカブトムシのおかげで、自ぜんが大すきになりました。これからもっと生き物のことを調べていきます。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### また来年も会おうね

富山市立奥田小学校 三年

吉野 よしの  
凜 りん

「ねえ、ばあちゃん。川に魚おるかな？」

「なーん。まだ田んぼに水入ってきてないからまだだわ。」

ぼくのばあちゃんの家の近くには、大きな川がある。

毎年、田うえのきせつになると、その大きな川の水を

用水路に引っぱってくるのだ。すると、田んぼ横の小さな用水路に、色々な生き物がやってくる。

ぼくは、どじょうやめだかをつかまえることがすきだ。生き物がすきだし、小さくてかわいいからだ。お母さんとバケツとアミを持って出かけ、用水路をのぞくと生き物がぴゅんと土の中や石の下ににげていく。だからぼくは、そつとのぞく。すると、小さなめだかがすいすい気持ちよさそうに泳いでいた。アミをざぶつと入れ、すくってみると、アミには水草とタニシが入っていた。

「かしてみて。ママとってみるわ。」

お母さんはアミをすいっと入れ、アミをあげた。中には小さなめだかが二ひき、ぴっぴつと入っていた。すぐにバケツに入れ、すいすい泳ぐめだかをじっと見る。目が大きくてかわいい。

「りんくんもやる!!」

ぼくは、すいっとアミを入れたけれど、力が入りすぎて土まで入れてしまった。ずっしりおもたくて、ぐつとアミがしなった。用水の中で土をふるい流すとアミの中に、にゆるんとどじょうがいた。

「ママ見てーどじょうおるーやったー。」

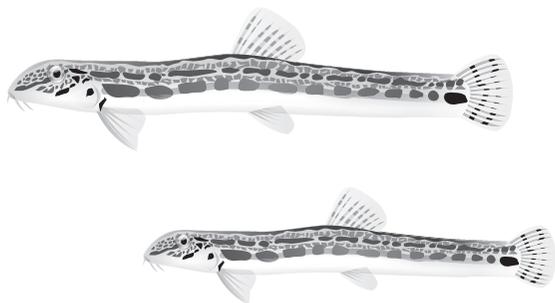
バケツの中には、めだかとどじょうが入った。うれしくて、ずっと見ているあきない。

「ママが子どもの時は、もっといっぱいめだかとかおったんだけど、もう少なくなっただんぜ。」

本当は、かいたかったけれど、しばらくかんさつしてからにがしてあげた。少なくなってしまうためだかやどじょうが用水でのんびりすごせるように。来年も、さ来年も、ぼくが大人になってからもずっと、この用水でめだかやどじょうに会いたい。

大人になったら、今どはぼくが、すいっとめだかをすくってお母さんにとって見せてあげたい。ぼくは、

この用水路が大すきだ。



\* 中学年部門 \*

佳作

ぼくと虫取り

高岡市立定塚小学校 四年

朝倉 あさくら  
巧海 たくみ

ぼくの家の近くには、高岡古城公園があります。だから、ぼくはよく、高岡古城公園へ虫取りに行きます。よく取りに行くのはトンボです。夏になると、シオカラトンボや、ギンヤンマがでてきます。毎年取りにいらっていると、トンボが出る場所がきまっているので、

そのポイントに探しに行きます。その年によって、数の少ない年もあって、トンボをつかまえるのがとっても大変です。

夕方まで探していると、コオロギのなき声が聞こえてきますが、コオロギを見つけるのなかなか大変です。古城公園は、みどりのしばふや木もたくさんあってとっても自然がたくさんあるのに、ぼくが見つけたつかまえられる虫はちょっとしかいません。

本当は、トンボよりも、カブト虫とかクワガタやカマキリをつかまえてみたいけど、昔よりも数がすくなくなりあまり見つからないので、とてもさんねんです。

ところが、たまたまおねえちゃんのテニスの試合で高岡スポーツコアへ行ったとき、テニススコートの回りの草むらで、トノサマバッタ、マツムシ、シヨウリヨウバッタ、キリギリス、などたくさんの虫を見つけました。トンボもたくさん飛んでいて、虫かごいっぱい

に虫をつかまえることができました。それから、毎年、夏の終わりごろになると、高岡スポーツコアへ虫を取りに出かかっています。

ぼくは、同じ自然がいっぱいあるところなのはどうして、こんなに、虫の数がちがうのかふしぎに思いました。家の人に話したら、じょ草の薬品や農薬がまかれていたのかもしれないね、と言っていました。ぼくは、虫がいっぱいいる方がうれしいので、もしも薬がまかれていたら、とてもざんねんだなあと思いました。

虫にも、やくわりがあつて生きているなら、虫がへるといふことは、自然かんきょうになにかこまること起きないのかなあと思いました。

ハチやチョウチョがへると、野菜の実が自然に実らなくなるし、お花も咲かなくなるそうです。こん虫は鳥のえさにもなるので鳥もへります。虫がへるといふ

ことは、自然がへることに、なるそうです。年々、ぼくの虫取りが大変になるのは、虫が育つ自然がどんどんへっているからなんだと分かりました。

ぼくは、虫が好きなので、自然をもっとふやせば虫がいっぱい育つて、それが、ゆたかな地球になると思いました。



\* 中学年部門 \*

佳作

わたしの大すきな地いき

富山市立宮野小学校 三年

鈴木<sup>すずき</sup> 亜依<sup>あい</sup>

下校中に、わたしが歩いていると、ゴミが一つも見あたりません。

ふしぎに思ったので、わたしのお父さんに聞いてみることにしました。すると、お父さんが、

「地いきはさいきんゴミが多いから、ゴミを見つけた

らすぐに地いきの人がひろってくれるんだよ。」  
と言われたのでびっくりしました。

わたしは、一人だけだと思ったからお父さんに聞いてみました。すると、

「二人では、大へんだから、みんなが助け合ってゴミが一つもないんだよ。」

と言っていました。

それが本当なのか分からなかったので、外に出て周りにあるゴミの数を数えたら、やく五こあったのでそのまましておいて、明日もう一回数えようと思いましたが。

そして、次の日、ゴミの数を数えたら三こ少なくなっていました。後の二こは、わたしがひろいました。そのことをお父さんにつたえると、

「地いきの人が力を合わせてくれたおかげだね、よかったね。」

などうれしい言葉をかけてくれました。

でも、川にゴミが落ちていることが多いので、そこでトンクを使って、お父さんといっしょに取ってみました。用水の流れがはやいため、子ども一人ではできません。大人がやることが多いけど、子どもと大人がいっしょにやるとかかるがらできたので、わたしはやりたいと思う気もちがあれば、お父さんといっしょにやっています。お父さんが、

「みんなで力を合わせればどんなことでもできるんだよ。」

と言ってくれました。

すると、周りにゴミが一つもなくなって気持ちすすきりました。

「みんなでやると気持ちがいいね。」

と言ってくれました。

わたしは、ただのゴミ拾いでも、むずかしいことだ

と思いました。いろんなことを考えて、どうしたらゴミがへるかを頭にも身にもつけられました。

このゴミひろいで、わたしは、自分の地いきが大さになりました。みんなできょう力することは、大事なことだと思いました。みんなでいろいろなことにしようせんするには、みんなできょう力がひつようだと思いました。

これからは、ゴミ拾いだけじゃなく、いろいろなことにしようせんしていきたいと思いました。

\* 中学年部門 \*

## 佳作

### 自まんの緑を守るため

高岡市立福岡小学校 四年

関<sup>せき</sup> 芽生<sup>めい</sup>

私の住んでいる富山県には、自まんしたいきれいな緑がたくさんあります。

学校の総合的な学習の時間で、地球温暖化について学習しました。

私たちの家で使っている電化せい品や車から、二酸

化炭素が出ていて、緑をこわしていることを知りました。そして、地球温暖化が原因で、富山県では、三十年代をこえる日が多くなってきているそうです。三十年前にくらべて雪のふる日も、雪の量も少なくなっているそうです。だから、さくらのさく時期やかえでの紅葉の時期が変わってきています。二〇三〇年代には、入学式ではなく、卒業式に、さくらがさくようになるかもしれないのです。これから先の私たちの入学式では、きれいなさくらの前で写真をとりたいです。

地球温暖化を止める取り組みがいろいろあることにおどろきました。

私は、お母さんにうるさく言われて、エコバックを持ち歩いたり、使わない電気をこまめに消したりしています。私は、知らないうちに地球温暖化の取り組みをしていました。

私は、この二つはよく出来ているので、早寝早起き

を心がける、という新しい取り組みをすることにしました。朝は明るいし、早起きして、明かりを使う時間をへらすためです。学校で集めているアルミかんのリサイクル活動には、これからもたくさん持っていきたいです。そして、今よりも、もっときれいな富山県の緑を十年後、百年後にもつなげていきたいです。

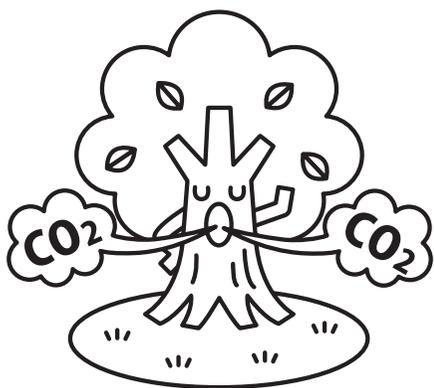
だから、二酸化炭素をへらす家庭をつくり、地球温暖化を止めることに協力してくれる人が、一人でも多くいてほしいです。私は来年、高学年になります。学校で地球温暖化について呼びかけたいと思います。

福岡小学校四年生全員に、富山県地球温暖化防止活動推進委員の方から、わが家の環境大臣任命証をもらいました。私は、富山環境チャレンジ10の紙を冷蔵庫に貼つと、お母さんにおねがいしました。

「へえ、こんなにたくさんできることがあるんやね。」  
と言って協力してくれました。妹や弟はまだ小さいの

で、私が絵本を読んだり、遊んだりして、テレビを見る時間をへらす手伝いをします。そこにお父さんが来てくれて、自然に一つの部屋ですごすことになりました。

私は環境大臣なので、これからも、環境にやさしい行動を積極的に行っていきたいです。



\* 中学年部門 \*

佳作

川にゴミを捨てないで！

高岡市立定塚小学校 四年

宮村 みやむら  
和香 わのか

私のおばあちゃんの家は、千葉県にあります。

毎年、夏休みになると、おばあちゃんの家遊びに

行っていて、今年は、江戸川にある「矢切の渡し」と

いう船に乗る体験をしました。私が、江戸川を見

ておどろいたことは、水が茶色で底が見えなかったこ

とです。さらに、ペットボトルや空缶などのゴミもう

いていました。どうしておどろいたかと言うと、私が

住んでいる高岡市の庄川は、水がすき通っていて、春

にはあゆつりができるし、秋になると、さけが産卵を

しに帰ってくるぐらいとてもきれいな川だからです。

船をこいでくれたおじさんが、

「昔はもつときれいで、泳いでいる人もいたんだよ。」

「この川の水は、じょう水場に送られて、水道水になっ

ているんだよ。」

と、教えてくれました。

それを聞いて、私は、高岡の水道水はおいしいのに、

おばあちゃんの水は、おいしくないのかなと

思いました。おばあちゃんも、

「この水道水は、消毒がいっぱい入ってるから、飲ま

ないほうがいいよ。」

と、言うので、おばあちゃんの家では、みんなお店で

\* 中学年部門 \*

買ってきたペットボトルの水を飲んでいました。私は、高岡でおいしい水道水が飲めるので、幸せだなあと思いました。

今年、もう一つ、遊びに行った川があります。それは、群馬県にある川で、とてもきれいでした。初めは足だけのつもりだったけど、あまりにもきれいなのでがまんができず、とうとう服のまま入って泳いでしまいました。きれいな川は、こんなに気持ちがいいんだと感じました。

帰る時に、川の周辺を歩いていたら、草むらにはたばこや空缶、バーベキューをしたあとのゴミがあちこちに落ちていました。それを見て私は、とっても悲しくなりました。川に捨てられていなかったのに、人目が少ない所に捨てられていたので、せつかくのきれいな川が台無しです。

周りの環境もきれいにすることが、きれいな川につ

ながっていくのかなと思いました。だから、ゴミは捨てないで、ちゃんと持ち帰ってほしいです。



\*高学年部門\*

## 最優秀賞

### いつまでもきれいな水で

立山町立立山中央小学校 五年

松崎 まつざき  
令愛 れいな

私は、去年の夏休み、「水と恵みと海岸せいそうバスツアー」に参加しました。

私は立山町に住んでいます。立山町には、常願寺川、白岩川、栃津川などがあります。バスツアーの案内に、「常願寺川の河川や用水を見学する。」と書いてあり、

私の住む町の川について知りたいな、と思ったからです。

ツアーは、横江頭首工からスタートしました。上流の川は、とてもきれいで、ゴミは、ほとんどありませんでした。

次に、との様林の公園に行きました。近くに畑があって畑で使う黒いビニールが風でとんで、ゴミになりやすいと話されました。そういえば、川ぞいの道には、ゴミが落ちていて、横江よりゴミがあるなと思いました。私は、おかしのゴミを一つ拾いました。

そして、岩瀬浜につきました。たくさんの人が、海水浴に来ていました。でも、たくさんゴミも落ちていました。海のせいそうボランティアをしている方の話を聞きました。

「海の砂浜に落ちているゴミのほとんどは、川から流れてきたものだよ。特にこまるのは、ハップウスチロー

ル。これは、すぐにボロボロになって、その小さなすが、海の生き物の口や鼻に入ってしまう。生き物たちが死ぬ原因なんだよ。」

私は、こわくなりました。砂浜には、ハップウスチロールのくずがいっぱいいます。

「少しでも、きれいになるといいな。」

とって一時間ほどがんばって拾いました。ペットボトルもたくさんありました。父、母、弟や他の参加者のみんなもいっしょうけんめいひろってました。でも、砂浜を全部きれいにすることはできませんでした。たくさんゴミが落ちていてシヨックでした。

私の住む立山町は、自然豊かな町です。立山の雪どけ水は、おいしいしきれいな水で、つくられたお米やくだもの、野菜は、給食にも使われています。森には、カブト虫やクワガタもたくさん住んでいます。私は、立山町が大好きです。もし、大好きな町をゴミでよこ

されたらとても悲しくなります。そして、私たちの命の源である水がよごされたらすべての生き物の命が危険になります。

だから、このツアーに参加して、たった一つのゴミでも大きな境界はかいつながるのだと思います。これからは、ゴミを落とさないようにして水をたいてつに使用したいです。そして、いつまでもきれいな川の立山町。おいしい水と、食べ物の立山町を守っていききたいです。

\*高学年部門\*

## 優秀賞

### 自然を守る人々

射水市立作道小学校 五年

内橋 うちはし  
美南 みなみ

このあいだ、おばあちゃんの家に行ったときに、外の景色を見て、びっくりしました。

おばあちゃんの家は、立山町にあるので、たくさん緑にかこまれています。私の住んでいる地いきにも、他の地いきと比べたら、緑は多めですが、地面にたく

さんのあきかんやペットボトル、生ゴミなどが落ちていてとてもきたないです。けれども、立山町は、地面にゴミやあきかん、ペットボトルなどのきたないゴミが一つもおちていませんでした。

そのことをおばあちゃんに聞くと、

「いろんな人たちが、自然を大切にしているから、ゴミがおちていたらまっさきにひろったり、ゴミをすてている人がいたらまっさきに注意したりする、やさしい人たちがいるからきれいなんだよ。美南もそんなりっぱでやさしい人になるんだよ。」

と言って、にこっと笑ってくれました。

家に帰って、お母さんとお父さんに、この話をする  
と、「おばあちゃんの言うとおりだよ。美南もゴミが落ちていたらひろってあげたりして地いきのかんきょうをきれいにしてね。」と言って答えてくれました。  
私は、「うん！分かった！地いきや自然をきれいにす

るね！」

と答えました。

すると、お母さんとお父さんが「えらい、えらい。」  
と言って、あたまをなでてくれました。

次の日に、私が学校に行くときに、五、六人の人が、  
ゴミぶくろと、長くて、ものをはさめるぼうを持って  
歩いていました。そこで、私は「何をしているんです  
か？」ときくと、

「ゴミひろいだよ。近ごろ、十、二十代くらいの人が  
たばこのすいがらや、あきかん、ペットボトルなどの  
ゴミを用水や道路にすてる人がいるからゴミをひろっ  
ているんですよ。あなたはそんなダメなことをしたら  
ダメだよ。」

と言っておしえてくれました。

私はそれを聞いて、

「分かりました。ありがとうございます。」

と言って、礼をしました。

私は、この地いきにも、ゴミひろいをしたりしてく  
れるやさしい人がいるんだ。ありがたいな。と思いま  
した。

これからも、ゴミひろいをしたりして、地いきや自  
然のかんきょうをよくしていこうと思います。学校や  
家でも、かんきょうについてよびかけていって、いつ  
か、ゴミゼロの地いき、ゴミゼロの自然、ゴミゼロの  
射水市、ゴミゼロの富山県、ゴミゼロの日本になるよ  
うに、がんばっていきたいと思います。

\*高学年部門\*

## 優秀賞

### 今の川と未来の川の環境

#### ～さけの放流～

富山市立速星小学校 六年

森内 もりうち 結子 ゆいこ

今年の二月に、速星地区ふるさとづくり推進協議会主催「さけ稚魚の放流」に参加しました。

毎日のように通っている坪野川の川べりまで、初めて下りてみました。思った以上に水がきれいなことと、

魚も十五種類もいるということにおどろきました。身近な坪野川について知らないことがあると思います。この活動では、昔、さけが遡上していた坪野川に、さけを呼び戻すことを目的として、更に、さけの一生や生命の尊さを学びました。

坪野川は、神通川の支流であり、カドミウムにより汚染され、さけの産卵量が減ってしまったということ。この活動を通して、初めて知りました。

さけは、何年もかけて海を回り、自分が産まれた川のおいことや水質をたよりにして、帰って来ていました。しかし、家庭雑排水や川工事などにより、水質やにおいが変わってしまいました。また、外来種の増加によりエサが食べられたり、帰ってくる前や帰ってきた後に、さけ自身が食べられたりしてしまいます。

このような理由から、天然のさけが産まれても、帰ってこれなかったり、帰ってきてても食べられたりして

しまったので、天然のさけの漁かく量が減ってしまいました。

そこで、人工的に育ててから放流する、栽培漁業が増えてきました。稚魚を放流したとしても、環境が悪ければ、さけは坪野川に戻ってくることはできません。この活動を通して、さけを放流するだけではなく、地域の人たちで川の環境を良くしないといけないと思いました。そして、今、私たちができることを考えてみました。

一つ目は、絶対にゴミを川に捨てないことです。自分だけでなく、家族や友達にも広めていきたいです。二つ目は、外来種の魚を放流しないことです。魚を飼うときは、最後まで責任をもって飼わなければいけません。

三つ目は、地域で行われる美化活動や清掃活動に積極的に参加することです。よりたくさんの方が参加す

ることで、拾えるゴミの量が多くなると考えられます。

神通川や坪野川などには、カドミウム汚染によりイタイイタイ病を発生させてしまった歴史があります。この歴史は、けっして忘れてしまっはいけないと思います。人間にとっても、魚にとっても、カドミウム汚染によって厳しい環境が作られてしまいました。

いろいろな人が長い間努力して、やっと、美しい川が取り戻されました。せっかく美しくなった川を、私たちの時代で汚すわけにはいきません。未来まで美しい川を残していくために、私たちも努力し続けていく必要があります。そして、今回放流した稚魚が、四年後に、立派なさけとなって帰ってくることを楽しみにしています。

\*高学年部門\*

## 佳作

### 私にもできそうな小さなこと

富山市立草島小学校 六年

島倉 しまくら  
実愛 みあい

私は、最も身近な家の環境を考えてみました。

私の家の中を見渡すと、物が多くあるように感じます。特にビニール袋と紙が多くちらかっていました。

ビニール袋は、家になくてもならない物です。ゴミ袋としても使うし、物を入れるときにとっても便利です。

ビニール袋は使っても、どんどん増える一方です。その原因を考えてみました。

私の家族はよく、コンビニを利用します。ひんぱんに買い物をするため、その度にビニール袋が増えます。スーパーで買い物をするため、その度にビニール袋が増えます。買い物をするとき、つい、エコバックを忘れ、新しいビニール袋を買ってしまうのです。これは環境に良くありません。これを機に、エコバックをきちんと活用していこうという話になりました。

大きなエコバックは、スーパーで買い物をしたときに使用し、買ったものを冷蔵庫に入れたら、すぐに車の中に戻しておく。小さなエコバックは、かばんの中に入れておいて、コンビニで使っている人は、あまり見ないけれど、薬局などで使えると思いました。このように、小さな努力でできることだと思いました。

紙が多いのは、私が原因だと分かりました。紙にも

\* 高学年部門 \*

いろいろな種類があります。まず、習字の半紙です。私は、習字を習っています。よく考えてみると、最初の一面を書いただけで、失敗したと捨ててしまい、新しい半紙を使っていました。一枚で、できるだけたくさん練習するようにしなければと思いました。

あと、私がよく使うのはメモ帳です。私はメモをとるとき、いつも、新しい紙を使っていました。ですが、新しい紙は必要なく、広告の裏や、いらぬ紙にメモをとればいいと思います。そして、その後が一番大事なことで、使い終わった紙をまとめて捨てていたら、何の意味もありません。再生紙として利用できるように、まとめてリサイクルに出すことが大切です。これをふまえて、私は紙をむだにせず、紙のあいている所を利用しようと思いました。

他の人にとってあたり前と思っていることでも、私は、それすらできていませんでした。小さなことしか

できないけれども、この一つ一つの努力が環境のためになると信じて、続けていきたいです。



\*高学年部門\*

佳作

熊野川をきれいにしよう

富山市立新保小学校 六年

数納<sup>すのう</sup>新太<sup>あらた</sup>

ぼくの家の近くに、熊野川が流れています。

熊野川は、神通川右岸にある神通川水系の支流であり、旧大山町の中央部にある、西笠山というところが源です。古くから農業用水などに利用されてきましたが、急流河川のため、川幅を広げたり、ダムを作り、

治水対策を行ってきた川です。昔は、あばれ川だったと聞きました。ぼくは、毎日、犬の散歩で熊野川の土手を歩いていると、雨が降った次の日は、ドロドロの茶色の水で、水の量も多く、土手をこえてくるかもしれないと、こわく思うときもあります。

ぼくのお父さんは、熊野川でアユをつかまえています。テンカラという方法で、アミを仕かけて魚をおい込み、最後に、もぐってアユをつかまえます。ぼくも、夏休みに、いっぱいお父さんとアユをつかまえに行きました。生き物がたくさんいて、アユのほかに、ウグイやカニをつかまえることが出来ました。周りを見ると、ほかにも、アユとりをしている人たちがたくさんいました。

こんなに近くにある川で、美味しいアユなどをとって食べるのができて、とても恵まれている地域だなと思いました。お父さんは、アユを食べるときに、川

に感謝して食べようと言います。ぼくは、魚の住みやすい環境をいつまでも残していきたいです。

熊野川の水はすき通っていて、もぐると、遠くまで見えるくらいにきれいな水で、夏でも冷たくて、とても気持ちが良いです。

でも、きれいに見える川も、もぐってみると、川の底には空きカンが多くあり、きゅうりやなすびが流れてきました。「ポイ捨てする人が多いんだな。」とかなしくなりました。一人一人が、ポイ捨てしないように気をつけると、川が汚れることもなくなると思います。ぼく自身も気をつけたいです。

生き物がたくさんいて、きれいな川をいつまでも残すために、ぼくたちにできることは何か、を考えてみました。昔は、川の汚れは工場からの汚水が原因で、イタイイタイ病の公害など、大きな問題になりました。この汚水がなくなっても、川の水はきれいにならず、

大きな原因は、家庭で使った排水だったそうです。そのため、食べ残しを減らし、台所に食べ物を流さないようにして、多くの生き物たちが生きていける場所を、ずっときれいな形で残していきたいです。



\*高学年部門\*

佳作

みんなとは少しちがう  
体験ができた登山

富山市立大庄小学校 六年

村井 莉子

初めて登った立山。私は登山の経験が全くない。だから、立山登山がとてもこわかった。

数人は経験者だったが、ほとんどは、初めて登る人ばかりだったので、少し安心したが、私は周りよりも

運動しん経がよくないので、やっぱり不安だった。

当日、みんなと楽しく出発できた。私の中にあつた不安が少しうすれた。バスを降りると、いつもとちがつた景色があつた。これから広がる立山の自然がとつても楽しみになつた。

一日目は、周りを歩いた。たくさん歩き、つかれたが楽しかった。二日目もこの調子でがんばろうと思つた。

二日目。班のみんなと一列になつて、頂上を目指して歩き出した。最初の方は、みんなと話しながら楽しく歩いてしたが、どんどんきつくなつていった。でも、あと少しと思ひながら、一生けん命に頂上を目指して歩いた。

一ノ越に着くぐらいに体調が悪くなり、みんなが頂上に向う中、私はもう一人の友達と下山した。とても悔しかった。

最初で最後の、六年生みんなで登る立山登山だったのに、頂上に行けないんだと、悔しさをかみしめながら下山した。

室堂山荘にもどると、朝、体調が悪くて、一緒に登れなかった友達が元気になっていた。その友達は、一ノ越まで登りたいと私に話した。私は、「どうしよう。私ももう一度登ろうかな。」と言った。起きると、その友達は、一ノ越まで登る準備をしていた。私は、一ノ越でみんなとお弁当も食べたかったし、体調も回復し、少し登りたかったので、「私も登りたい。」と言って、一緒に、一ノ越を目指して歩くことにした。

と中、休けいもとりながら、二人で話しながらなんとか一ノ越まで登った。着いたときには、他のみんなはまだ頂上のあたりだったので、待つ間に、一ノ越の岩や石の道を登ってみた。最初は、こわそうで気が進まなかったけど、先生や友達について行くと、意外と

楽しくなってきた。登ったりおりたりしていると、みんなが一ノ越に向っておりてくるのが見えた。また、みんなと合流できてうれしかった。

その後、一ノ越で一緒に弁当を食べた。二回も一ノ越まで歩いた後に食べる弁当の味は、格別だった。

私は、この立山登山で、チャレンジするということの大切さを、改めて実感した。一度、下山してしまっただけで、また、友達と二人で力を合わせて、一ノ越まで登れたときは、頂上に行っていないのに、頂上に行けたような達成感があった。そして、「チャレンジしてみてもよかったな。」と心から思った。

多くのことを学び、友達と力を合わせて協力できた立山登山。私にとって、とても充実した、かけがえのない経験になった。





# 清流環境科学賞

\*低学年部門\*

## 最優秀賞

### ぼくがつかまえたむし

射水市立太閤山小学校 一年

泉 いずみ

佑樹 ゆうき

ぼくは、おばあちゃんのいえのにわの木のえだで、  
こがねむしのような、みどりいろのむしをつかまえました。  
そのむしは、えだのなかにかくれていて、みえ  
ませんでした。

ぼくは、こがねむしかもしれないとおもって、おお

きなむしとりあみで、きのえだやはっぱをノックする  
かんで、トントンしてみたら、むしがじめんにおち  
てきたので、そのむしをつかまえて、むしかごにいれ  
ました。

ぼくは、このむしが、こがねむしか、かなぶんかわ  
からなかったので、かんさつしてみました。こがねむし  
とかなぶんは、いろやかたちがにいますが、こがねむ  
しは、まえばねをひろげるとびます。かなぶんは、まえ  
ばねをとじてとびます。でも、虫がこのなかでは、とべ  
ないから、この虫がどっちはわかりませんでした。

ぼくがつかまえた虫は、はねのつけねのぎやくさん  
かっけいがちいさかったので、たぶん、こがねむしだっ  
たとおもいます。

こがねむしは、あみのすきまからにげたり、あみの  
なかでうんちをしたりするので、つかまえるのがむず  
かしいです。だから、つかまえられてうれしかったです。

\*低学年部門\*

優秀賞

さかながきらいなハンバーグソース

富山大学人間発達科学部附属小学校 一年

奥<sup>おく</sup>望帆<sup>みほこ</sup>子

六がつ八日、かんきょうかがくセンターにいきました。そのときに、おしえてもらったことは、わたしをびっくりさせました。

それは、たべのこしたソースについてです。おさらのこされた、おいしそうなハンバーグソース。おさ

らを、そのままあらって、水でながしてしまおうと、川のさかなには、どくなのです。

わたしたちにとっては、ごちそうでも、さかなたちにとっては、きらいで、いやなかんきょうようになってしまふのだということに、おどろきました。

まいにちのしょくじは、のこさずたべきり、ソースやケチャップがのこってしまったときは、ペーパーナプキンでふきとってから、ちゃんやおさらをあらいたいとおもいます。

がっこうのきゅうしょくのときも、そのことをともだちにおしえてあげると、みんなすこしでも、おさらをきれいにしようががんばっていました。

とやまけんの、きれいでうつくしいかんきょうを、わたしたちがまもっていくことは、たいせつです。みんなのくらしを、よりあんげんで、あんしんなものにしていきたいとおもいます。そのためには、ちいさなことで、まいにちつづけていこうとおもいます。

\*低学年部門\*

## 優秀賞

### うみのごみひろい

富山市立大庄小学校 一年

水上<sup>みずかみ</sup> 碧季<sup>あおい</sup>

「わあ。こんなものまですててある。」

ことしのなつやすみ、わたしは、ママとおにいちゃん  
と三にんで、うみにあそびにいきました。とやまの  
うみです。すなはまがとてもきれいで、わたしは、う  
みのなかにはいって、おにいちゃんとおにごっこをし

てあそびました。

すなはまに、たくさんのごみがおちていることにき  
づき、ごごから、ママとごみひろいをすることにしま  
した。まだつかえるスリッパやサンダルまですててあ  
ることがわかりました。「もったいない。まだつかえる  
のに。」と、かぞくではなしました。そこで、ほかにも  
どんなごみがあるかしらべてみることにしました。

すると、かんこくからながれついたバケツを、はっ  
けんしました。このうみは、せかいにつながっている  
んだということがわかりました。また、じぶんたちの  
よごしたのも、だれかのせいかつを、きずつけてい  
るかもしれないとおもいました。

わたしは、これからじぶんにできることをかんがえ  
ました。まずは、かたづけです。そして、ものをたい  
せつにすることです。これからも、まだつかえるもの  
は、たいせつにつかっていきたいです。

\*低学年部門\*

佳作

はぐろとんぼをつかまえた

富山市立芝園小学校 二年

槻尾 つきお  
福美 ふくみ

田んぼをしているパパが、くろいとんぼがいると、  
教えてくれました。わたしも、ちょっとみたくなって、  
パパにつれてってもらいました。

いへの田んぼには、くろいとんぼは、ぜんぜんいま  
せんでした。でも、すこし大きな川の近くに、たくさ

んいました。ちょうのように、ひらひらとんで、とて  
もきれいでした。とてもすばやかたですが、わたし  
は、二ひきつかまえました。すきとおるよううつく  
しさで、あとで、にがしてあげました。

いえにかえって、インターネットでしらべると、は  
ぐろとんぼという名前でした。かみさまとんぼともい  
われています。おもしろいなまえだ、とおもいました。  
八がつにいるそうです。むかしから、大せつにされて  
きたんだな、とおもいました。

はぐろとんぼは、どこにでもいるわけではありませ  
ん。きんじょでも、一ぶのばしよにしかいませんでし  
た。そこには、大きな木がありました。はぐろとんぼ  
がいるのは、大きな木のためか、水がきれいなためか  
わかりません。これからも、はぐろとんぼを見られる  
といいなとおもいました。

\*低学年部門\*

佳作

## ペットボトルのリサイクル

富山大学人間発達科学部附属小学校 二年

もりやま  
森山 明莉

わたしのおかあさんは、いつも、ペットボトルをスーパーマーケットにもって行きます。どうしてゴミをもって行くのか聞いてみたら、「リサイクルのためなんだよ。」

と、教えてくれました。

わたしは、リサイクルがよくわからなかったので、図書かんでしらべてみました。わかったことは、ペットボトルが、もう一ど新しいペットボトルになったり、トレイやたまごのパック、ようふくなどに生まれかわったりすることができるといことです。

ペットボトルは、石ゆからできていて、その石ゆは、どんどんなくなっているそうです。リサイクルが大切で、そのために、いろいろなマークがあることも知りました。よく見たら、おかしやジュースにもそのマークがありました。リサイクルできるものがたくさんあって、びっくりしました。

さいきん、わたしは、おかあさんとおなじように、ペットボトルのラベルとキャップをとって、きれいにあらっています。すこしめんどうだな、とかんじると

きもあるけど、ペリペリとラベルをとるのはおもしろいです。

かんきょうをまもるために、ゴミをへらしたり、リサイクルをたくさんできるように、わたしができるところを、がんばってつづけていこうと思っています。



\* 中学年部門 \*

## 最優秀賞

### ふるさとの自然

氷見市立宮田小学校 四年

金田 かなだ  
和華 のどか

わたしが、かよっている学校の近くには、希少な植物が数多く生育し、また、昆虫や鳥類の飛来も多く、動植物の生息に適した、自然環境が保たれている乱橋池があります。

この乱橋池には、もう一つの名前があります。それ

は、トンボ池です。

わたしは、夏休みの日曜日、お母さんといっしょに、学校の草むしりで乱橋池に行きました。草むしりをしてしていると、トンボが、すぐ近くにいました。それは、ハラビロトンボです。ハラビロトンボのオスの形態は、三十六・五ミリ〜三十八ミリです。メスの形態は、三十六ミリです。他にも、バッタの子どもや、チョウがいました。いろんな生き物がいたので、もっときれいにしたいと思いました。

乱橋池しゅう辺には、トンボが数多く生息しています。乱橋池をふくむ一〜五か所が、すみかとなっています。トンボがたくさん生息しているので、トンボ池ともいわれているのです。子どもたちにこのことをしてほしいと、本を書いた人もいます。その本の題名は、『乱橋池の自然を守れ』です。いろんな人に読んでもらいたいです。

一年前、総合の勉強で、乱橋池へ行きました。先生は、何年か前に、チョウトンボを見つけたと言っていました。わたしも見てみたいです。ことしも行って、かさついているとき、男子がマムシを見たとき、大あわてできました。そのとき、タブレットを持っていたので、写真をとっていました。

この乱橋池には、トンボのてんてきや、危けんな生き物がいます。てんてきは、アメリカザリガニという外らしいゆです。もともと、食料として、もってこられました。そこから、大はんしょくして、トンボをねらっているのです。そのアメリカザリガニを、くじょしてくれる人がいます。それは、トンボを守る会の人たちです。あみなどをしかけて、くじょしています。

このように、乱橋池のトンボは、たくさんの人たちに守られています。そして、富山県内で、幻のトンボと呼ばれている、「マルタンヤンマ」や「ネアカヨシ

ヤンマ」を含む六十五種のトンボは、宮田地区の宝物です。

これからも、この自然環境を大事にして、守りたいです。美しい里山とトンボの楽園が、遠い未来にも残るよう、乱橋池周辺を、多様な野生生物が生存する宮田地区にしたいです。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### カモシカ

富山市立山田小学校 三年

小向こむかい  
瑠璃るり

「車を運転していたら、田んぼのすぐ横にカモシカがいたよ。大きかったから大人かもしれない。」

と、家に帰ってきたお母さんが、言っていました。山田は森林が多いので、カモシカやサル、イノシシがたくさん生息していて、よく見かけます。

カモシカは、シカ科ではなく、ウシやヤギと同じウシ科です。本で調べたら、ウシ目ウシ科ヤギ亜科でした。

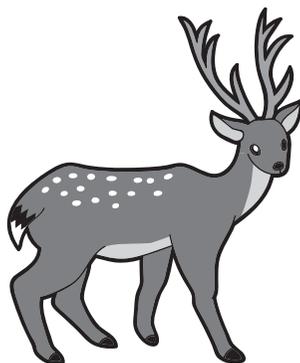
カモシカは、よく道路を走ることがあります。それはえさをさがしに行くときか、てきからにげるときです。カモシカは、草食性なので、いろいろな草を食べるそうです。畑の作物まで、食べることもあるそうですが、山田では、えさが多いからか、わたしは近くで見ることがありません。

カモシカは、単独で生活し、オス、メスがそれぞれ、なわばりをもっているそうです。だから、お母さんが見たカモシカも、一頭でいたのかもしれない。それから、時そく七十キロメートルのスピードで走ることができて、二メートルのジャンプ力もあるそうです。近づいてけられると、大けがをしそうです。おとなしそうにじっとしていても、自分を守るために、こ

うげきしてくるかもしれません。

カモシカのしっぽは、短くて白色で、毛が長いです。人間みたいなほっぺたもあるので、かわいい感じがします。角は、えだ分かれせず、十センチメートルくらいで、生えかわらないそうです。

日本全土で生息しています。山には、食べ物もいっぱいあり、けいかい心も強いので、ぜつめつしなかったのかもしれない。そんなカモシカたちが、生きのびていくために、きれいな山にしておきたいです。時々、道路や田んぼに出てきても、安心して帰れるすみかのある山にしておきたいです。カモシカのえさが、たくさんある森林にしておきたいなあと思いました。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### ぼくのじいちゃん

富山市立山田小学校 三年

谷上 たがみ 晴音 はると

ぼくのじいちゃんは、「こな太郎」という水車を作りました。清水（しょうず）のきれいな水を使って、動かしています。

水車小屋の中では、水車の回転がじくに伝わって、石うすでそばをひいています。そばのこなをひくの

で、「こな太郎」という名前になったそうです。水車は、タイヤのように回ります。じいちゃんは、清水にすんでいる人と協力して、しかけを作りました。水車の中には、スイッチがあつて、それをおすと、水車が止まるようになっていきます。ベルトコンベアで動いています。こんなしかけを考えたいじいちゃんは、すごいです。

ぼくのじいちゃんは、清水でできるいろいろな行事を、清水の人たちと考えてきました。その一つに、公民館の前で、毎年行なわれる、流しそうめんやしゃやてきがあります。子どもも大人もいっしょに楽しめます。じいちゃんも楽しそうです。

それから、清水で何か作ろうと考えて、思いついたのが水車だったそうで、自ぜんにやさしい動力として、いつも流れている水を、生かそうと思ったそうです。じいちゃんは、いろいろとせつ計をして、大きな水車を作りました。上から水がおちるようになってだけで、

水車が回ります。テレビに出たこともあります。ぼくたちの生活している清水を、大切にしています。ぼくたちのために、いろいろ考えてくれています。

ぼくのじいちゃんは、田んぼに電気さくなどをつけたりして、いのししから田んぼを守っています。

ぼくが、

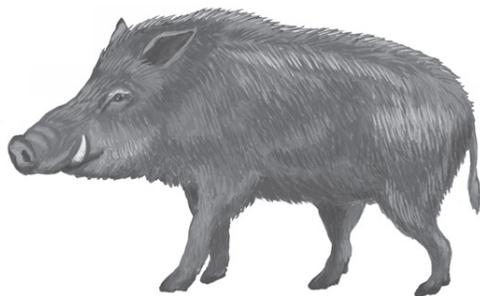
「なんでそばを作ったの。」

と聞いたら、

「清水が広いから、畑を見てそばを育てて、そばやを作ろうと、思いついたんだよ。」

と、じいちゃんが言っていました。

ぼくも、じいちゃんのように、清水地区のために、役立つことをしたり、地いきの人と楽しんだりすることを考えていきたいです。



\* 中学年部門 \*

佳作

やさしさをでまもれるもの

砺波市立出町小学校 三年

荒木 あらき 結夢 ゆめ

わたしは、自ぜんや動物が大すきなので、動物園によく行きます。

あるとき、トラが、ぜつめつきぐしゅに指定されていることを知りました。とてもおどろいて、家に帰ってから、なぜそうなったのか、ぜつめつさせないため

にわたしにできることはないか、と考えたり、調べたりしました。すると、人間のせいで、川や海がよごれ、森林がへっていることを知りました。そこで、自分ができることを家族と一しょに考え、二つのことにとり組むことを決めました。

わたしが遊びに行く山や海、川には、ペットボトルやふくろ、ガラスのはへんなどがすてられているのをよく見ます。そのゴミたちのまわりに、生き物は少ないように思います。少なくなった生き物に、もどってきてほしくて、毎回、ゴミをひろって持ち帰り、分べつしてすてているけれど、とてもかなしい気持ちになり、すてた人にかりもかんじます。

わたしは、ひつようなとき以外は、ふくろやプラスチックせい品、おはしをもらわないようにしています。これらのことは、これからもつづけていきます。それに合わせて、一つ目のとり組みとして、毎日、三しゅ

るいのゴミひろいをしていこうと決めました。

さい初に調べていたとき、森林をこわして、あぶらのざいりょうのはたけにしていることを知りました。あげ物はおいしいし、きゅう食にもよく出ますが、このあぶらが、かんきょうはかいにつながっているとは思いませんでした。まったく使わないというのは、ふかのうなので、かんきょうのことを考えた商品を、えらぶことにしようと、母と決めました。初めは、身近な家族から、そして、たくさんの人にひろめていけたらいいな、と思います。

自分では、かんきょうについて考えていたつもりでしたが、まだやれることがたくさんあることが、分かりました。地きゅうは、全部つながっています。その地きゅうは、人間だけのものではありません。まずは、自ぜんにかん心を持ってほしいです。これは、今すぐ、だれにでも始められます。人間は、べんりな生活のた

めに、動物をぎせいにして自ぜんをこわしてきましたが、自ぜんをふつ活させて、まもっていけるのも人間です。

一人ひとりができることは、小さなことかもしれませんが、一人ひとりのやさしきで、まもれるものがあることをつたえていきたいです。



\* 中学年部門 \*

佳作

プラスチックゴミをなくそう

高岡市立定塚小学校 四年

伊藤 いと 航祐 こうすけ

海洋プラスチックとは、人間が海や川、陸にプラスチックをすてて、それが風で飛ばされて流れてできるものです。

ぼくは、死んだクジラの胃の中から、レジぶくろやプラスチックのカップなどが、たくさん出てきたとい

うニュースを見ました。胃の中が、プラスチックのゴミでいっぱいになり、えさをたべられなくなったり、えいようをきゅうしゅうできなくなったりして死んでしまったそうです。そんな生き物が、世の中にたくさんいて、問題になっていることを知りました。

このまえ、ぼくは、おばあちゃんと雨晴の海に行きました。そこには、ヤドカリやカニがたくさんいて、大きな場所なのですが、そのニュースを知ってから行くと、とてもかなしい気持ちになりました。なぜなら、その海にも、たくさんのごみぶくろが流れていたからです。いつかこのゴミを、クジラやイルカが食べてしまうかもしれないと思いました。自分の大きな場所からのゴミが、生き物を死なせるかもしれないと思うと、とてもいやになりました。

ぼくは、お母さんからマイクロプラスチックというのがあると聞きました。すてられたプラスチックは、

太陽の光や熱で、もろくなってこわれやすくなり、細かくだけたマイクロプラスチックになることを、本で調べました。マイクロプラスチックは、海全体に広がり、しずんでしまいます。それが、小魚や貝の中で見つかり、それを人間が食べていることを知りました。もしかしたら、人間もクジラのように、たくさんマイクロプラスチックを食べると、死んでしまうのではないかと思ったらこわいです。

いろいろな生き物や人間のために、プラスチックのゴミがなくなるといいな、と思いました。ゴミをすてないようにして、ゴミを見つけたら、ゴミはゴミばこにすてるようにしないとけないな、と思いました。

ぼくはおかしを食べたとき、ゴミをそのままにして遊びに行ってしまうことがあります。小さなゴミでも、風に飛ばされて川に入ると、海に行ってしまうんです。たくさんの方が、小さなゴミだからいいやとほってお

いたら、いつのまにか、ゴミだらけになっていくかもしれない。これからは、おかしのゴミも、きちんとゴミばこにすてようと思いました。あとは、ピクニックに行ったときは、ごはんのゴミや落ちているゴミを拾って、ゴミが落ちていないかかくにんして帰りたいと思います。

これで、海がすこしでもきれいになったらいいなと思います。いろいろな生き物を守っていききたいです。

\* 中学年部門 \*

## 佳作

### 夏休みの自由研究

富山市立山田小学校 三年

竹森たけもり 麟汰郎りんたろう

夏休みの自由研究に役立つために、ぼくの地区にすんでおられる、じゅういの長尾さんから、ニワトリのことをたくさん教えてもらいました。

長尾さんは、ニワトリやハトをたくさんかっておられます。長尾さんのかっているなごやコーチンは、性

かくがあらいと言っておられました。おとなしいニワトリのせ中がはげているのも、性かくのあらいニワトリがひっかくからだそうです。おとなしい方は、こうげきしないから、このままでもいいそうです。ニワトリにえさをやると、つつついて食べるので、つつつかれるといたそうです。

なごやコーチンのたまごは、茶色です。スーパーマーケットで、よく見かけるたまごは、ハクシヨクレグホンだそうです。長尾さんのかっているなごやコーチンは、みんなすごく元気で、羽がぴかぴか、つやつやで、おすの羽は長くてぴんと立っています。だからたまごも新せんで、とってもおいしいです。

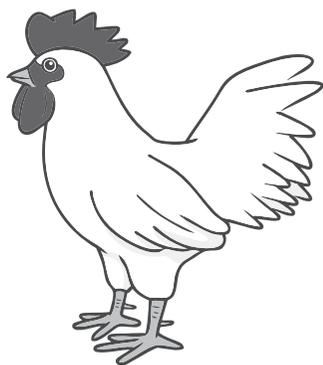
でも、ニワトリは、胃の消化が弱いので、えさの中に石が入っていて、胃の中ですりつぶしているそうです。また、貝がらのくだいたものも、えさに入っていて、たまごのからを強くするのに役立っているそうです。

ニワトリ小屋は広くて、外にすな場もありました。ハエを落とすときに、すなを足でいっぱいけって当てるそうです。元気なしょうこです。それから、ねるときは、木に止まってねるそうです。ぼくは、地上でねるのかな、と思っていたから、びっくりしました。木をしっかりつかんでいるそうです。

長尾さんは、たまごをかえすきかいを持っておられました。三十どくらいで、二週間あたためると、たまごがかえるそうです。きっと、元気なニワトリの産んだたまごだから、元気なヒヨコが生まれるのだと思います。

ぼくの住んでいる地区は、まわりを山にかこまれています。だから、空気も水もきれいで、のんびり生活できます。ニワトリも、のんびり生活できると思います。自由研究のおかげで、ニワトリのことをいろいろ知ることができました。広々とした小屋で、自由に生

活させておられる、長尾さんから教えてもらって、元気なニワトリのひみつを知ることができました。



\*高学年部門\*

## 最優秀賞

### 青い海で魚が泳ぐために

富山大学人間発達科学部附属小学校 五年

松井 啓

昨年、鎌倉市の由比ヶ浜海岸に、絶滅危惧種のシロナガスクジラの赤ちゃんの死体が、打ち上げられているニュースを見た。

原因は、プラスチックごみを、えさと間違えて食べてしまったからだ。ぼくは、このニュースをきっかけ

に、プラスチックごみが、今、日本にどれくらいあるのか、調べてみたくなった。

調べてみると、処理しきれていないプラスチックごみが、日本だけで、百九十万トン近くあることが分かった。しかも、さらに調べてみると、日本人一人当たりのプラスチックごみ排出量は、アメリカに次いで、二番目に多いということも分かってきた。

ぼくは、普段、買い物をしたり、外食をしたりするけど、必ずと言っていいほど、ビニールやプラスチック容器に入っている物を目にする。でも、それを分別することでリサイクルされて、別の物に生まれ変わるのなら、それでいいと思っていた。実際、お店でも家でも、資源ごみの分別は、積極的にやっていたと思う。しかし、分別だけでは、今ある廃プラスチックを減らしていくことはできない。海は汚れていくし、生物も死んでいってしまう。

昨年の夏の自由研究では、ぼくは、地域に流れる早月川のことを調べた。

上流から下流まで、とても澄んだきれいな水が流れていたことに感動した。アユやヤマメなどの魚も、元気に泳いでいた。

しかし、日本中の川のことをよく調べてみると、産業排水や生活排水で水が汚れ、それが原因で、川が死んでしまっているということが分かった。だから、普段から水を節水したり、なるべく汚さないようにしたりすることが、とても重要なのだ。川にしても海にしても、人間の身勝手な行動が、水を汚し、生き物を追いつめているということに、ぼくは気づいた。

学校の授業で習った「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」は、「4R」に変化してきている。その四つ目は、リヒューズ（断る）だ。ぼくは、この言葉に納得した。なぜなら、分別する以前に、自ら、プラ

を使わなければいいと思ったからだ。

この「4R」を知ってからは、例えば、コンビニに行ったときに、必ず自分から、レジ袋を「いりません。」と、はっきり言うようにしている。家では、なるべく手作りの菓子を食べたり、ラップの代わりに布ラップを使ったりして、プラスチックが出ないように工夫をしている。また、世界的にも、自分が必要な分だけを、持ってきた袋に入れて購入する「量り売り」が、見直されてきているようだ。

ひとりひとりが、他人事と思わずに、意識して行動していけば、廃プラスチックは必ず減っていくと思う。ぼくが大人になるころには、今よりもっときれいな海になって、海に生きる生物が、自由に泳ぎ回っていてほしいと思う。

\*高学年部門\*

## 優秀賞

### 海洋プラスチックごみについて

富山市立堀川南小学校 六年

小島<sup>こしま</sup> あかり

ある年の六月。富山の町中で、大きなお祭りがありました。道の両はしには、お店が並んでいました。たくさんの方で、前に進むのもやっとでした。

どのお店で何を買ってもらおうかと、ワクワクしながら歩いていたのですが、とつ然、前の人が、食べ終

わったプラスチック容器を、ポイッと捨てました。私は、あまりにとつ然のことで拾うこともできず、人ごみに流されて、前に進むことしかできませんでした。ごみを捨てたのに、何事もなかったかのように、歩いていく人を見て、それまでワクワクしていた気持ちも、一気になくなりました。

今年の六月にあったG20大阪サミットでは、海洋プラスチックおせん問題について話し合われました。ポイ捨てなど、不適切に処分されたプラスチックごみが、大量に海に流れ出て、海をよごして、そこに住む生き物をくるしめています。そのようなことから、世界各国で、海洋プラスチックごみを、減らす努力をしているようです。

私が、海洋プラスチックおせん問題についていろいろ調べていたとき、プラスチックのは片が鼻につまって涙を流すウミガメや、プラスチックの輪が首にまき

ついた鳥の写真を見ました。プラスチックは、人間の生活を豊かにしている一方で、海の生き物たちに、害をおよぼしています。

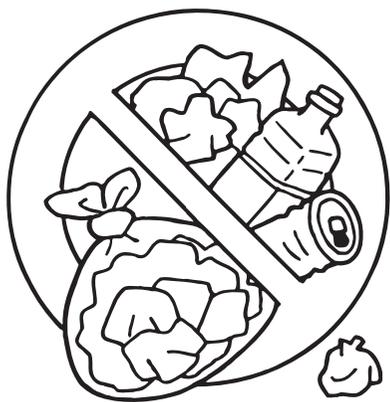
私は、生き物たちが苦しんでいるのを見て、悲しくて、かわいそうだと思ったと同時に、お祭りでポイ捨てをした人を、許せない気持ちになりました。

海洋プラスチックごみを減らすには、一人ひとりがごみを決められた場所に捨て、ポイ捨てをしないことが必要だと思います。自分がポイ捨てをしたものが、最終的にどうなっていくかを知ったり、考えたりする機会がいろいろなところであればいい、と思います。そうすることで、たくさんの方のポイ捨てに対する考えが変わるはずですよ。

また、定期的に、町ぐるみでごみ拾い活動をしたり、プラスチックごみが出るような物を売っている会社は、プラスチックに変わる自然素材を開発する努力

をしたりしてほしいと思います。

私たち人間は、たくさん動物、植物と、「地球」というシェアハウスでくらしています。みんなで仲良く生きていくために、みんなの「家」をよごさない努力を、一人ひとりがしていかなければならないと思いました。



\*高学年部門\*

## 優秀賞

### 温暖化を防ぐために 自分たちができること

富山市立鵜坂小学校 五年

水野 みずの  
愛椛 あいか

わたしは、地球温暖化について考えました。

地球温暖化には、温室効果ガスが関係しています。

例えば、二酸化炭素やメタン、一酸化二窒素、フロン類などが、地球を温かくしてしまいます。主にごみや、

人の体内から出る二酸化炭素が、原因となっています。

そこで、わたしは考えました。ごみをへらせば、二酸化炭素をへらせるんじゃないかと思いました。道のごみが落ちているのと落ちていないのでは、二酸化炭素の量がちがうと思ったからです。

自分たちで、できることは、ポイすてをしないことやごみをへらすこと、道に落ちているごみをひろい、分別してだすことです。紙やペットボトルを、てき切りにリサイクルすることで、ごみを燃やすよりも、温室効果ガスの排出をへらせます。こういう一つ一つの心がけがあることで、少しでも、地球をすくうことができます。

けれど、温室効果ガスをすべてなくしてはいけません。理由は、地球の平均気温は生き物がくらしやすい十四度前後に保たれているからです。温室効果ガスがないと、ほとんどの熱が宇宙に放出され、地球の平均

気温は約マイナス十九度になってしまおうと言われて  
います。

このように、温室効果ガスは大切な役わりを持って  
いるけれど、今、この温室効果ガスがふえすぎて  
いることが、問題になっています。熱を吸収する温室効果  
ガスがふえると、その分、地球の温度が上がってしま  
い、北極の氷がとけたり、異常気象が発生して農作物  
が被害を受けたりするなど、大きな影響が出ています。  
石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料は自動車や電  
力、暖房などのエネルギー源として、今のくらしにな  
くては、ならないものになっています。

一方、植物は、光合成で二酸化炭素を吸収しますが、  
森林伐採が進むと地球全体の二酸化炭素吸収量にも影  
響がでます。化石燃料をたくさん使うことと、森林の  
破壊が、地球温暖化の大きな原因となっています。

わたしは、今回、初めて温暖化について知りました。

わたしが知らない所で、地球温暖化という、かんきよ  
う問題が起こり、かい決がむずかしいことを感じまし  
た。

最初は、不安でしたが、作文を書いている内にさま  
ざまなかい決法がでてきて、自分たちにも、できるこ  
とがあると思えました。

わたしは、これから、少しずつでもいいので、地球  
をすくうために地いきの活動やクリーン作戦にも取り  
組んでいきたいと思えました。

\*高学年部門\*

佳作

大事なもの

富山市立芝園小学校 五年

寺てら 奏多かなた

ぼくは、こども新聞のクイズで、「世界の国の中で水道から直接水を安全に飲める国は何か国ですか?」という問題の答えを見てしよげきを受けました。

「三十か国ぐらいいかなあ。」と思っていたのに、正解は、日本を含めてたったの九か国でした。ちょうど学

校でも環境とエコについて習っていたので、この問題をクイズとしてクラスのみんなに出したところ、二十か国、五十か国、九十か国とか、ほど遠い解答が返ってきました。ぼくを含めみんなは、水道水が飲めるのは当たり前だと思っていました。

世界の多くの国では飲み水をかく保するために、子どもたちは、水を求めて遠い所まで、何往復もしなければならなくて、学校にも通えないということです。世界には、水不足に苦しむ国、水がおせんざれている国、こう水の被害にあった国などがたくさんあります。これをきっかけに、ぼくは、環境と水について調べてみたくまりました。

調べているうちに、びっくりしたことは、日本人は、水の半分近くを世界から輸入していることです。ぼくは、毎日風呂に入り、頭や体にたっぷりの水を使い、そして、洗濯にもたくさんのお水を使っています。水は

\* 高学年部門 \*

あらゆることに必要です。米、野菜、食肉、物づくり等を外国の水にたよっています。

わたしたち人間が、たくさんのも二酸化炭素を出した結果、「地球温暖化」を生み出しました。そして、「水のじゅん環」のバランスをくずしました。水の問題は、自然環境について学ぶ入り口で、食料、エネルギー、はいき物など、さまざまな社会問題に関係しています。

「ぼくらの未来はこわいです。」と伝えたいし、水の大切さを、周りの人々に伝えたいです。学校で学ぶことは大切なことだと思います。世界中の子どもたちがみんな学校で勉強ができ、いろいろ学ぶことによって、世界が良い方向に変わると思います。

ぼくは、歯みがきのときは水を止める、頭や体を洗っているときはシャワーを止める、見えないテレビを消すなど、身近で、自分にできることから気を付けて、取り組むようになりました。

学校で習わなければ、自分から調べたり、節水節電したりしようとは思いませんでした。



\*高学年部門\*

佳作

「美しい海」を実現させるために

砺波市立砺波東部小学校 六年

原野 はらの 眞羽 まほう

最近、「海洋プラスチック」の問題が、クローズアップされています。

例えば、海辺に打ち上げられたクジラの体内から、計四十キロのプラスチックゴミが出てきたというニュースです。このクジラは、海に捨てられたプラスチック

チックゴミを食べてしまい、命を落としました。これは、私たち人間が、海に捨てたプラスチックゴミが原因ではないか、と考えました。

しかし、プラスチックゴミで、被害を受けるのは、クジラだけではありません。海に住んでいる小さな生物が、プラスチックを取り込んで、それを食物連鎖で魚や海鳥の体内に取り込まれてしまいます。さらにこうした食物連鎖を通じて、私たち人間の体内にもプラスチックが蓄積しているのではないかと考えられています。

しかし、世界では、年間約八百万トンものプラスチックが、ごみとして海に流れ込んでいくと、推計されています。さらに、このペースでプラスチックゴミが増えていくと、二〇五〇年には、海に住んでいる魚全ての重量より、プラスチックの方が重くなると言われていて、「プラスチックの海」になってしまうのではないかと

いか、と懸念されています。

そこで、どうしたらプラスチックを少しでも減らすことができるか、を考えました。でも、世の中には、プラスチックでできているものがたくさんあります。ペットボトル、ポリ袋、トレイ、卵パックなど。それを、人間が使っているのです。今の世界の人口は、約七十億人を超えています。

だから、最近ではコーヒーチェーン店やファミリーレストランで、「紙で作られたストロー」を使い、プラスチックでできたストローは、一切使用しないと決めたお店もあります。

しかし、これだけでは足りないのではないのでしょうか。そこで、一番良い方法は何か、を考えました。「スーパーでポリ袋を買わず、マイバックを持っていく。」や、「プラスチックゴミを減らそうと呼びかける。」などの方法も必要ですが、一番良い方法は、「約七十億人一

人ひとりが、『プラスチックゴミを減らそう』と心掛ける。」という方法だと思っています。

一人が声をかけて、数人が賛成したら、プラスチックゴミが、少しは減ると思います。でも、全てのプラスチックゴミはなくなるとは、思いません。それでは、約七十億人が賛成するとどうなるでしょうか。一人ひとりが、「プラスチックゴミを減らそう。」と心掛ければ、全てなくならないとは思いますが、たくさんプラスチックはなくなると思います。

この方法が実現させて、未来の海が、「きれいで美しい海」になることを、私は願っています。

\*高学年部門\*

佳作

称名滝のきれいな水が  
常願寺川まで届く

富山市立神保小学校 五年

山口 やまぐち  
和瑚 わこ

「お母さん、いつでも、ずーっときれいな水だった  
らいいね。」

私の家の近くに、赤江川があり、去年の川のすこや  
かさ調べで、赤江川はきれいな川だと分かりました。

富山県には、たくさん川の川があって、有名な川を調  
べてみたいと思いました。

そこで、称名滝と常願寺川の水がきれいなかを調  
べました。とうし度計は、一メートルのつちに川の水  
を入れます。プラスのマークがあります。はっきりと  
見ればきれいな水で、まったく見えないときは、き  
たないということです。

滝の近くには、たくさん観光客がいて、中国語や  
かん国語や英語のかんばんがありました。他の国の人  
が見に来るなんてすごいし、有名なんだと分かりまし  
た。

滝の周りは、すずしく滝の水しぶきが風でまい上  
がっていました。ふれると気持ちいいし、とても気分  
がよくなりました。とうし度計で見ると、プラスのマ  
ークがはっきり見えて、つつの中に水が入っていない  
みたいでした。

「きれいな滝だなあ。」

「たっくさんの水ですごいなあ。」

と、思いました。

いつでも、きれいなじょう態でいると、

「また、行きたいなあ。」

と思い、観光客がふえてもっと有名になると思いました。

次に、常願寺川の水を調べると、にごっていました。

とうし度計でのぞいてみると、下のプラスのマークが見えませんでした。それに、常願寺川の周りは、鳥はいませんでした。川にも、魚やこけがなかったのではありませんでした。川にも、魚やこけがなかったのではありませんでした。称名滝から常願寺川まで、どういうふうにきたなくなったのか、不思議に思いました。きれいな水から、きたない水になったのか、予想してみました。

どうして下流に行くと、にごってしまうのかは、ご

みを川にすてたりしたからだと思いました。それに、

工場のふんじんやどしゃもあると思いました。川の水

が、いつもきたないじょう態ではなく、きれいなじょ

う態で、魚もいたらいいと思いました。自然があつて、

鳥や魚が住みやすいようにしたいです。そして、私た

ちができることは、川にごみをすてたりせず、ごみを

出すルールを守ったり、拾ったりすることだと思いま

す。

私がおばあちゃんになっても、きれいな川であつて

ほしいです。

## ◆募集要項

### ★応募対象

富山県内の小学生（1年生～6年生）

### ★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について感じたこと、考えたこと
- ② 住んでいる地域の環境、自然について考えたこと
- ③ 水や食の安全について考えたこと
- ④ 生き物とのふれあい体験
- ⑤ 山や川・海での体験
- ⑥ 教科や総合的な学習の時間等で取り組んでいる環境問題
- ⑦ 個人・地域で取り組んでいる環境問題
- ⑧ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

### ★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下の通りです。  
小学校1・2年生 4000字詰原稿用紙 本文 6000字以内  
小学校3・4年生 4000字詰原稿用紙 本文10000字以内  
小学校5・6年生 4000字詰原稿用紙 本文12000字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学校名、学年、氏名（ふりがな）を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチ

キスでとめてください。

- ④ 応募する賞を明記する必要はありません。選考委員会ですら適切に判断します。
- ⑤ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限ります。
- ⑥ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑦ 応募は清流会館まで、郵送でお願いします。学校・学級でまとめて応募することもできます。複数名の作品を同封する場合は、応募者名の一覧（学年、題名記載）と担任・担当者のお名前を書いたものを同封してください。
- ⑧ 応募期間は2019年7月1日～2019年10月20日とします。
- ⑨ 応募作品の返却は原則行いません。

### ★賞の種類

- A) イタイイタイ病に関する内容  
清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- B) 自然・環境に関する内容  
清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- C) 生き物・命に関する内容  
清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- D) がんばって応募してくれた学校・学級  
清流環境奨励賞

## ★表彰

- ① 小学校1・2年生の部(低学年)、3・4年生の部(中学年)、5・6年生の部(高学年) 毎にそれぞれの賞について、最優秀賞、優秀賞、佳作を选考します。
  - ② 最優秀受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード1万円分)を贈ります。
  - ③ 優秀受賞者には表彰状と副賞(図書カード5千円分)を贈ります。
  - ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
  - ⑤ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級には表彰状と盾、副賞(学校賞 図書カード3万円分、学級賞 図書カード5千円分)を贈ります。
  - ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々(語り部の講話等)を派遣して公害、環境教育のお役に立ちたいと思います。
  - ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。
- ★選考
- ① 表彰作品は清流環境作文コンクール選考委員会で選考いたします。
  - ② 選考結果は2020年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2020年2月を予定しています。
- ★その他
- ① 個人情報の取扱い  
応募の際に提供いただく個人情報は、以下に掲げる

事項に必要な範囲で使用します。

- ・ 本コンクールの運営(外部審査員への提供を含む。)
  - ・ 受賞作品の発表
- ② 当財団が行う事業全般についてのご連絡  
・ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ、又は当財団が適当と考える場所(富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等)において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ写し等を当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。
  - ③ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。
  - ④ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文(氏名、所属等特定の応募者を識別することができない情報は含みません。)について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。
  - ⑤ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。
  - ⑥ 入賞作品の文集掲載時に、全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2019年度  
第2回 清流環境作文コンクール  
受賞作品集

---

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会  
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684  
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23  
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2020年2月25日



